令和６年度

講 義 要 項

経営学研究科経営学専攻

博 士 後 期 課 程

埼玉学園大学大学院

成績評価について

〔成績評価の方法〕

授業科目毎の成績評価方法は各科目のシラバスに記載されています。評価項目ごとに配点比率が明示されていますので、確認してください。

〔成績評価の内容〕

成績は、「S」「A」「B」「C」「D」と表記されます。このうち「S」「A」「B」「C」は合格です。合格と判定された科目には所定の単位が与えられます。「D」と表記された科目は不合格ですので単位は修得できません。具体的な評価内容は以下のとおりです。

素点	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0
成績通知表	S	A	B	C	不可
成績証明書(和文)	S	A	B	C	表記しません
成績証明書(英文)	S	A	B	C	表記しません
合否	合　　格				不合格

※ 令和４年度までの成績評価で、素点が 90 点以上だったものは「S」として取り扱います。

目　次

経営学特講（工藤　悟志）----------1
経営組織論特講（文　　智彦）----------2
ヘルスケアサービス・マネジメント特講（一戸　真子）----------3
地域企業論特講（塩谷さやか）----------4
国際経営特講（工藤　悟志）----------5
経営史特講（張　　英莉）----------6
マーケティング論特講（水野はるな）----------7
労務管理特講　※本年度休講----------8
財務会計特講（篠原　　淳）----------9
管理会計特講（藤井　博義）----------10
国際会計特講（篠原　　淳）----------11
経営財務特講（福永　　肇）----------12
租税法特講（佐藤　正勝）----------13
貨幣論特講（藤井　大輔）----------14
金融論特講（花崎　正晴）----------15
国際金融論特講（秋場　勝彦）----------16
リスク・マネジメント特講（冨家　友道）----------17
特別研究指導Ⅰ（花崎　正晴）----------18
特別研究指導Ⅱ（花崎　正晴）----------19
特別研究指導Ⅲ（花崎　正晴）----------20
特別研究指導Ⅰ（一戸　真子）----------21
特別研究指導Ⅱ（一戸　真子）----------22
特別研究指導Ⅲ（一戸　真子）----------23
特別研究指導Ⅰ（佐藤　正勝）----------24
特別研究指導Ⅱ（佐藤　正勝）----------25
特別研究指導Ⅲ（佐藤　正勝）----------26
特別研究指導Ⅰ（塩谷さやか）----------27
特別研究指導Ⅱ（塩谷さやか）----------28
特別研究指導Ⅲ（塩谷さやか）----------29
特別研究指導Ⅰ（張　　英莉）----------30
特別研究指導Ⅱ（張　　英莉）----------31
特別研究指導Ⅲ（張　　英莉）----------32
特別研究指導Ⅰ（福永　　肇）----------33
特別研究指導Ⅱ（福永　　肇）----------34
特別研究指導Ⅲ（福永　　肇）----------35
特別研究指導Ⅰ（文　　智彦）----------36
特別研究指導Ⅱ（文　　智彦）----------37
特別研究指導Ⅲ（文　　智彦）----------38
特別研究指導Ⅰ（Ⅱ・Ⅲ）（藤井　大輔）----------39
特別研究指導Ⅰ（水野はるな）----------40
特別研究指導Ⅱ（水野はるな）----------41
特別研究指導Ⅲ（水野はるな）----------42
特別研究指導Ⅰ（工藤　悟志）----------43
特別研究指導Ⅱ（工藤　悟志）----------44
特別研究指導Ⅲ（工藤　悟志）----------45
特別研究指導Ⅰ（篠原　　淳）----------46
特別研究指導Ⅱ（篠原　　淳）----------47
特別研究指導Ⅲ（篠原　　淳）----------48

経営学特講　　工藤　悟志

授業概要

経営学特講では、企業経営の根源的な問題の一つである経営倫理の問題に対して、「倫理と企業者活動」の切り口からアプローチする。本講義では明治期から昭和初期にかけて活躍した代表的な企業者として渋沢栄一を取り上げる。渋沢の事績を通して日本資本主義の発展過程における、倫理思想に裏づけられた企業者活動を考察する。

授業計画

第１回	ガイダンス ー講義計画ー 経営倫理について
第２回	渋沢栄一の事績と思想
第３回	渋沢研究史序論 ー研究史の整理ー
第４回	渋沢の企業者活動(1) ー渋沢の関与企業ー
第５回	渋沢の企業者活動(2) ー企業創立への関与ー
第６回	渋沢の企業者活動(3) ー株主総会への関与ー
第７回	渋沢の企業者活動(4) ー社外重役･外部者としての関与ー
第８回	企業者活動と情報(1) ー渋沢の情報活動ー
第９回	企業者活動と情報(2) ー出資と経営ー
第 10 回	企業者活動と情報(3) ー経営者層の啓蒙ー
第 11 回	企業と資金活動(1) ー渋沢の資金管理ー
第 12 回	企業と資金活動(2) ー渋沢の出資動向ー
第 13 回	企業と資金活動(3) ー資金と信用ー
第 14 回	企業と資金活動(4) ー第一銀行の経営ー
第 15 回	演習のまとめ
第 16 回	定期試験

到達目標

本講義では、「企業倫理と企業者活動」に関する知識を高度なレベルで修得することを到達目標とする。これにより、いかなるテーマで博士論文を作成する場合でも、企業経営について倫理的側面から検討を加えるにあたって必要な知識と、その応用を可能ならしめる力量を蓄える。

履修上の注意

対面授業形式で行う。履修者は参考書の各章を読み込み、指定するテーマに基づいて毎回レポートを提出する。発表後、テーマに沿って議論を行う。履修者は積極的に議論に参加することが求められる。より実感をもってテーマを理解できるよう講師の実務経験を交えた講義を行う。

評価方法

毎回の講義で指定するテーマに関する課題レポートの評価を 60%加味する。期末試験は全講義を通して学んだ内容に基づいた論文作成を課し、その内容評価を 40%加味する。

テキスト

参考書：島田昌和『渋沢栄一の企業者活動の研究』(日本経済評論社、2007 年)。

経営組織論特講　　文　智彦

授業概要

本講義では、優れた意思決定を行うための組織のあり方について講義する。

組織の存続と発展のためには優れた戦略が、優れた戦略のためには優れた戦略的意思決定プロセスが構築されなければならない。本講義では、優れた意思決定とりわけ戦略的意思決定を行うための組織のあり方について考察する。

授業計画

第１回	概要
第２回	意思決定の神話
第３回	意思決定の難しさ
第４回	戦略的意思決定とは
第５回	戦略的意思決定プロセスの諸モデル
第６回	戦略的意思決定プロセスに関する事例研究
第７回	戦略的意思決定プロセスに関する理論研究
第８回	コンティンジェンシー・アプローチ
第９回	戦略的選択アプローチ
第10回	社会的相互作用アプローチ
第11回	アクティビティ・ベースト・アプローチ
第12回	戦略的意思決定プロセスに関する実践理論
第13回	戦略的意思決定の改善のためのテクニック・スキル
第14回	意思決定プロセスの事例分析①
第15回	意思決定プロセスの事例分析②
第16回	総括

到達目標

理論について批判的視点から体系的に理解し、博士論文作成のための独創的な視点を養う。
理論に基づき事例を分析し、具体的な構想を提示する能力を構築する。

履修上の注意

事前に文献を読み理解し、授業内では積極的に議論に参加することを求める

評価方法

ディスカッション・プレゼンテーション・レポートにより評価

テキスト

指定しない

ヘルスケアサービス・マネジメント特講　　一戸　真子

授業概要

グローバル・ヘルスケアサービス・マネジメント理論の構築について講義する。特に、急速に展開するヘルスケアサービスに関するグローバル化について理解を深めるられるように指導する。どの国がどのようなヘルスケアサービス問題を抱えているか、日本はどのような点が優れているか、各国の取り組みを総合して望ましいヘルスケアサービス・マネジメントはどうあるべきかについても講義する。また、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の動向や医療の標準化や評価の流れについても講義する。

授業計画

第１回	グローバルな視点からみたヘルスケアサービス・マネジメント
第２回	ベストプラクティス/パフォーマンスとマネジメント
第３回	ヘルスケア・コンシューマー・オリエンティッド
第４回	WHO、OECD、WMA 等の役割
第５回	JICA、Bill & Melinda Gates Foundation、The World Bank 等の役割
第６回	グローバル・ヘルスケアサービス・マネジメント①：アメリカ・イギリス
第７回	グローバル・ヘルスケアサービス・マネジメント②：カナダ・オーストラリア
第８回	グローバル・ヘルスケアサービス・マネジメント③：ドイツ・北欧諸国
第９回	グローバル・ヘルスケアサービス・マネジメント④：中国・その他のアジア諸国
第10回	グローバル・ヘルスケアサービス・マネジメント⑤：途上国
第11回	教育・研修の重要性
第12回	国際認証評価　JCI、ISQua
第13回	Policy、System、Universal Standards
第14回	Quality、Safety、Efficiency 、Accessibility
第15回	ＵＨＣ（Universal Health Coverage）
第16回	期末試験

到達目標

① グローバル・ヘルスケアサービス・マネジメントの基本的視点が理解できる。
② 各機関の役割やアプローチが理解できる。
③ わが国のヘルスケアサービス・マネジメントの現状を客観的に分析できる。
④ ユニバーサル・ヘルスカヴァレッジ（ＵＨＣ）について理解を深める。
⑤ 国際認証評価や医療の標準化で重要とされている視点について説明できる。

履修上の注意

グローバルな視点で医療について考える習慣をつけて欲しい。
欧米の文献を使用するので、英語力も身につけることを求める。
予習・復習各２時間程度。

評価方法

レポートおよび発表 40%、期末試験 60%

テキスト

教科書は特に指定しない。必要に応じて適宜資料を配布する。

地域企業論特講　　塩谷　さやか

授業概要

本講義では、世界的な競争の中で海外企業との競争激化に直面している地域企業、地域中小企業の課題、問題点をケーススタディを通じて学ぶと共に、自ら地域企業、地域中小企業の課題、問題点を抽出し、解決策を提案することを目的としている。また、受講生の研究テーマに関わる地域企業、地域中小企業を取り上げ、その実態を講義することで、研究内容を深めることに努める。

授業計画

第１回	オリエンテーション
第２回	受講生の研究テーマと本講義について
第３回	地域企業と地域企業の海外進出戦略
第４回	地域企業と地域企業の海外進出戦略
第５回	各自プレゼンターションと討議
第６回	地域ブランドと産業振興
第７回	地域ブランドと産業振興
第８回	各自プレゼンターションと討議
第９回	地域企業と中小企業の課題と発展可能性
第10回	地域企業と中小企業の課題と発展可能性
第11回	各自レポートの発表と討議
第12回	受講生の関心のある企業のケーススタディのプレゼンターション①
第13回	受講生の関心のある企業のケーススタディのプレゼンターション②
第14回	受講生の関心のある企業のケーススタディのプレゼンターション③
第15回	受講生の関心のある企業のケーススタディのプレゼンターション④
第16回	定期試験

到達目標

地域企業と地域中小企業を学ぶことで、国内外の経済社会の変化と今後を展望できる能力と問　題解決能力を身に付けることができる。また、論文作成の基本的な論点整理に繋がる分析力を備えることが出来る。

履修上の注意

★事後学習として、授業で取り上げるケーススタディに関する課題レポートを課す。
★企業を取り巻くグローバル経済・社会の最近の動向について、新聞記事・テレビでニュース・インターネット等を活用し企業の経営活動や経営戦略を定期的にフォローすること。
★関心のある企業の「経営」（多くの企業で「中期経営計画」として企業のホームページでの「企業情報」や 「IR（投資家向け情報）」に公表されている）を読み（ホームページで閲覧可能）、専門用語等についての理解を深めておくことが望ましい。
★本講義では、学生と講師によるディスカッションを大切にしたいと考えている。

予習・復習

予習、復習をきちんと行い、毎回出席すること。

評価方法

課題提出（50%）、定期試験（50%）で総合評価します。

テキスト

テキストは使用せず、ケーススタディとして、新聞記事、雑誌記事などを配布する。

国際経営特講　　工藤　悟志

授業概要

本講義は，国際企業経営，世界企業の行動の特質，などの解明を目的とし，そのための 1 つの手立てとして，世界石油産業界の主導的な大企業群（国際石油企業）の活動を講義します。19 世紀中葉のアメリカにおいて発祥した近代石油産業は，19 世紀の末までに海外に多数の子会社を持つ世界企業を登場させました。最大企業ニュージャージー・スタンダード石油会社（現エクソンモービル社）の企業史は，世界企業とは何か，企業の活動の国際化とは何かを我々に知らしめる好個の検討素材を提供しています。本講義は，21 世紀の今日までを射程に入れて，国際石油企業の活動を考察し，国際企業経営についての深い理解の獲得を目指します。

授業計画

第１回	はじめに
第２回	現代経済と石油産業
第３回	世界石油産業の発展と国際石油企業
第４回	19 世紀後半・末におけるスタンダード石油会社による世界市場支配
第５回	両大戦間期における世界石油産業の再編成
第６回	第２次大戦後の中東地域での国際石油企業による油田支配
第７回	1970 年代における中東地域での油田支配体制の変貌
第８回	国際石油企業による原油生産体制の再構築－1970 年代
第９回	国際石油企業による原油生産体制の新展開－1980 年代，90 年代
第 10 回	国際石油企業による原油生産体制の現段階－21 世紀初頭以降
第 11 回	国際石油企業による製品販売体制の再編成―1970 年代以降
第 12 回	国際石油企業による事業の多角化戦略の追求―1970 年代以降
第 13 回	国際石油企業の経営組織の再構築―エクソンモービル社を対象に
第 14 回	国際石油企業の現段階
第 15 回	総括
第 16 回	課題レポートの提出と発表

到達目標

国際石油企業の活動を追跡し，世界企業とは何か，国際企業経営とは何かについての深い理解の獲得を目指します。

履修上の注意

（1）レジュメや資料（統計，図表など）を配布し，これに沿って解説します。但し，以下の論文等を用いるときは，出席者に報告を求めます。
（2）病気などの場合を除いて，毎回欠かさず出席してください。

評価方法

レポートの提出，討論への参加をそれぞれ 50%で評価します。

テキスト

現時点ではテキストを予定していませんが，参加者と話し合いの上，演習方式を取り入れる場合は，以下の小論などを配布します。
伊藤孝「1970 年代におけるエクソン社の原油獲得活動」,『社会科学論集』, 埼玉大学, 第 138 号, 2013 年,
伊藤　孝「エクソンモービル社の史的展開－1970 年代初頭から 21 世紀の最初の数年間まで―」,『社会科学論集』，埼玉大学，第 149・150 合併号，2017 年,

参考文献：

伊藤　孝『ニュージャージー･スタンダード石油会社の史的研究―1920 年代初頭から 60 年代末まで』，北海道大学図書刊行会，2004 年,

経営史特講　　張　英莉

授業概要

本講義では、いわゆる「日本的経営」の形成、変遷の過程を丹念に考察し、「日本的経営」の特質を考究する。戦後の日本企業は当時のアメリカ経営の姿を「普遍的で一般にあるべき姿」として捉え、経営者の多くはアメリカの経営から貪欲に学び、その経営モデルに接近しようとした。しかし、その過程に日本で出来上がった経営方式はアメリカの模倣ではなく、またその他の国とも異なった極めて「日本的」な特徴をそなえたものであった。本講義では「日本的経営」のこれまでの研究を概観したうえで、戦後日本企業における「集団主義」、「集団的行動」をメインテーマとして取り上げる。また「日本的経営」との関連で、アジア、特に中国の企業経営史の特徴と問題点について、「日本的経営」との比較を念頭に併せて講義する。

授業計画

第１回	ガイダンス（授業方法、授業計画、到達目標、評価方法、基本文献の紹介など）
第２回	「日本的経営」とは何かⅠ　「日本的経営」の源流
第３回	「日本的経営」とは何かⅡ　ジェームズ・アベグレン『日本の経営』における論点：「三種の神器」説の影響と限界
第４回	「日本的経営」とは何かⅢ　研究の系譜と論点の整理
第５回	「日本的経営」と伊丹敬之の「人本主義」
第６回	「日本的経営」と加護野忠男の「愚直の経営」
第７回	日本企業のアメリカ経営手法への接近と揚棄Ⅰアメリカ的経営管理方式の導入過程
第８回	日本企業のアメリカ経営手法への接近と揚棄Ⅱアメリカ的経営手法の吸収と改良
第９回	日本の経営組織と日本的集団行動の特質Ⅰ
第10回	日本の経営組織と日本的集団行動の特質Ⅱ
第11回	JIT と集団主義的経営――価値の共有とモチベーション
第12回	中国国有企業の組織と個人の関係Ⅰ　改革開放前後の変化
第13回	中国国有企業の組織と個人の関係Ⅱ　日・米・中の比較
第14回	「日本的経営」の海外移転
第15回	「日本的経営」と企業経営のグローバル化
第16回	期末試験

到達目標

本講義を通じて、修士課程で習得した知識をもとに、戦後復興期から高度成長期までの日本の経済・経営発展の全般をより広く深く理解し、グローバル経営の観点から「日本的経営」を認識し、独創性豊かな自立した研究者に必要な素養を身につけることが最終目標である。

履修上の注意

指定された文献を通読し、与えられた課題をやり抜き、自分の考えや意見を積極的に述べることが要求される。

評価方法

課題への取組み 80%、学期末試験 20%の配分割合で評価する。

テキスト

テキストならびに参考文献は授業中に適宜指示する。

マーケティング論特講　　水野はるな

授業概要

本講義は、マーケティングに関する文献研究を読み進めることを通して、近年行われてきたマーケティング研究の動向を把握することを目的に講義します。

授業計画

第１回	オリエンテーション
第２回	和文誌における文献研究によるマーケティング研究の動向把握①
第３回	和文誌における文献研究によるマーケティング研究の動向把握②
第４回	和文誌における文献研究によるマーケティング研究の動向把握③
第５回	和文誌における文献研究による消費者行動研究の動向把握①
第６回	和文誌における文献研究による消費者行動研究の動向把握②
第７回	和文誌における文献研究による消費者行動研究の動向把握③
第８回	英文誌における文献研究によるマーケティング研究の動向把握①
第９回	英文誌における文献研究によるマーケティング研究の動向把握②
第10回	英文誌における文献研究によるマーケティング研究の動向把握③
第11回	英文誌における文献研究による消費者行動研究の動向把握①
第12回	英文誌における文献研究による消費者行動研究の動向把握②
第13回	英文誌における文献研究による消費者行動研究の動向把握③
第14回	マーケティング研究における文献レビューの方法
第15回	まとめ
第16回	レポートの提出

到達目標

本演習は、以下の１点を到達目標とします。

・マーケティング研究の研究動向を理解し、研究に活かすことができる。

履修上の注意

この講義は、少人数で行われることが予想されます。活発な議論を行うために出席は必ずするようにしてください。無断での欠席や遅刻は厳禁とします。

予習・復習

特に指定はしません。

評価方法

発表…50 点、レポート 50 点の計 100 点満点で評価する。

テキスト

・テキストは定めない。必要な資料は適宜配布します。

労務管理特講　※本年度休講

授業概要

授業計画

第１回	
第２回	
第３回	
第４回	
第５回	
第６回	
第７回	
第８回	
第９回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	
第16回	

到達目標

履修上の注意

予習・復習

評価方法

テキスト

財務会計特講　　篠原　　淳

授業概要

市場のグローバル化により、財務会計制度はその対応を一番求められる分野である。特に会計基準は、国際会計基準（IFRS）のように、公正価値評価による会計情報を重視するなど会計観の変化をもたらしている。ここでは、これまで習得した会計諸基準の知識を踏まえて、博士論文作成に必要な水準に理論を深化させ、現実問題の実証あるいは実態分析などに必要な技法の習得させることを意図している。特に「金融商品」、「公正価値測定」、「収益認識」などの特徴分析において、資産負債アプローチに基づく会計基準の計算構造とその基礎をなす概念フレームワークの体系的理解を主眼とする。

授業計画

第１回	受講生の問題意識の確認、財務会計の概要
第２回	財務会計の存在意義と会計研究の方向性
第３回	財務会計における「理論的研究と実態あるいは実証分析」の意義
第４回	財務会計制度の理論的形成の分析
第５回	財務会計の法的規制と会計基準の体系
第６回	財務会計概念フレームワークの意義と特徴分析
第７回	公正価値測定の意義とその特徴分析
第８回	損益認識と資産・負債評価の関連性
第９回	収益費用アプローチと資産負債アプローチの意義と特徴
第10回	利益概念の変化 ―純利益と包括利益の特徴分析―
第11回	収益認識の理論的検討―実現稼得モデルと顧客契約モデル
第12回	負債と資本の概念的分析
第13回	条件付持分請求権（新株予約権など）の会計
第14回	金融商品会計の理論的分析
第15回	デリバティブの会計処理
第16回	定期試験

到達目標

- 博士論文の作成に必要な会計理論と制度分析に関する知識を習得することができる。
- グローバル化に伴う会計問題についての分析力を向上させることができる。
- 会計制度の国際的動向や会計情報の分析能力を習得できる

履修上の注意

- 授業の進め方は講義形式と受講生による発表を中心とする。
- 授業での積極的な貢献が求められる。

予習・復習

- 指示した事項や自己の論文テーマに関する予習・復習に務めること。

評価方法

期末試験またはレポート報告 60%、授業での積極性（報告の内容及び質疑応答など）40%

テキスト

- 開講時に指示する。
- 必要に応じて参考文献を指示したり、関連資料を配布を行う。

管理会計特講　　藤井　博義

授業概要

管理会計は、経営者の意思決定に有用な会計情報を提供するための会計である。言い換えれば、経営者が経営上の諸問題を発見・解決するため、そして組織をうまく運営するために重要な会計である。本講義は管理会計の体系的な知識と技術の習得を目的として講義する。

本講義ではただ単に管理会計の技法を扱うだけでなく、管理会計が歴史的にどのように発展してきたのか、組織や経営の変化とどういう関係にあるのかという観点も含めて、博士論文に必要な知識、考え方の取得を目的とする。なお、受講生人数や受講生の会計知識の習得状況など反応をみて内容や講義方法を多少変更することがある。

授業計画

第１回	ガインダンス
第２回	管理会計のフレームワーク
第３回	原価計算のための損益分岐点分析
第４回	ABC
第５回	意思決定とコスト情報
第６回	組織と管理会計①
第７回	組織と管理会計②
第８回	中期利益計画と BSC
第９回	予算管理
第10回	原価企画
第11回	生産物流のための管理会計
第12回	設備投資の意思決定　設備投資の経済性計算
第13回	マーケティングのための管理会計
第14回	イノベーションのための管理会計
第15回	まとめと復習
第16回	試験

到達目標

・博士論文に必要な管理会計の知識、考え方の習得ができる
・具体的な管理会計手法を理論的および実践的に理解することができる
・企業経営における様々な意思決定とそのメカニズムを理解することができる。

履修上の注意

受講生の報告をもとにディスカッションしながら進めていきます。

予習復習

予習復習は各自必ず行うこと。

評価方法

レポート（60%）、受講態度（40%）にて評価します。

テキスト

浅田孝幸他（2017）「管理会計・入門」有斐閣アルマ

国際会計特講　　篠原　　淳

授業概要

本講義では、国際会計特論の水準を発展・進化させて、論文作成に必要な国際会計論の理論をさらに深める。IFRS 適用には資産と負債における公正価値の評価範囲の拡大と包括利益の表示による利益概念の変化に対処することが求められている。ここでは、IFRS 適用企業を中心に財務諸表の事例分析を通して、IFRS と日本基準との理論的関連性を分析し、さらに IFRS 適用のあり方や日本の企業会計の国際的に対応するための手法を学ぶ。

授業計画

第１回	国際会計基準（IFRS）の意義とその特徴
第２回	会計国際化の変遷と IFRS 適用の状況
第３回	日本基準の固有性と IFRS との関連性分析(1)
第４回	日本基準の固有性と IFRS との関連性分析(2)
第５回	公正価値会計の特徴と論点整理
第６回	公正価値会計の適用上の個別論点
第７回	公正価値評価とその影響分析の争点
第８回	会計観の相違と利益概念の変化との関連性
第９回	包括利益の概念と論点整理
第10回	包括利益の導入と業績報告
第11回	IFRS 適用企業の実態分析とその検討(1)
第12回	IFRS 適用企業の実態分析とその検討(2)
第13回	IFRS 適用企業の実態分析とその検討(3)
第14回	IFRS 適用企業の実態分析とその検討(4)
第15回	日本における IFRS 適用の課題とその可能性の検討
第16回	定期試験

到達目標

- 博士論文の作成に必要な会計理論と制度分析に関する知識が習得できる
- グローバル化に伴う国際会計問題についてより深く分析力ができる
- 会計制度の国際的動向や会計情報の分析能力の習得できる

履修上の注意

- 授業の進め方は講義形式と受講生による発表を中心とする。
- 自己の論文テーマに関する予習復習に務めること。
- 授業での積極的な貢献が求められる。

予習・復習

授業の理解度を高めるために、レポートなどを通して講義内容に合わせて国際会計の関連用語を熟知させる。

評価方法

期末試験またはレポート報告 60%、授業での積極性（報告の内容及び質疑応答など）40%

テキスト

- 開講時に指示する。
- 必要に応じて参考文献の紹介や関連資料を配布する。

経営財務特講　　福永　　肇

授業概要

本講義では、組織の資金調達の手法と実務を学ぶ（金融理論よりも金融実務を重視する）。特に資金調達における考え方、リスク等の留意点に注力して講義する。令和６年度の講義では、対象に日本の「病院」を選択し、病院における資金調達を通じてファイナンスを理解する。

しかし日本の民間病院では株式発行による資金調達は実質的に禁止されている（「医療法人は、剰余金の配当をしてはならない」－医療法第 54 条－）。「株式は人類最大の発明の一つ」ともいわれており、主要な資金調達手段である。そこで（病院の資金調達では欠落しているが）株式発行による資金調達を２コマ講義する

なお本講義は令和６年度秋期の博士後期課程での開講予定であるが、講義内容は、令和６年度春期に博士前期課程にて開講予定の「経営財務特論」と基本的に同じ内容である。

授業計画

第１回	資金調達における６つの検討項目（調達可能金額、調達条件、オールインコスト、難易度と必要時間、経営権への影響、調達の継続性/安定性）
第２回	資金調達・資金運用の区分（短期/長期、間接金融/直接金融、自己資本/他人資本）
第３回	貸借対照表とファイナンス（デット、エクイティ、アセット。ヒドン）
第４回	短期資金調達（資金繰り管理、運転資金、借入金利/利息の計算方法）
第５回	長期資金調達（長期資金調達形態、設備投資資金への与信審査、担保、保証人）
第６回	デット・ファイナンス①（政府系金融機関からの資金調達）
第７回	デット・ファイナンス②（民間銀行借入、信用格付、債務者格付）
第８回	デット・ファイナンス③（シンジケートローン）
第９回	デット・ファイナンス④（債券発行による資金調達）
第10回	エクイティ・ファイナンス（自己資本：資本金、資本準備金、利益剰余金）
第11回	アセット・ファイナンス①（診療報酬債権流動化、不動産流動化）
第12回	アセット・ファイナンス②（ファクタリング、資産担保証券 ABS）
第13回	ヒドン・ファイナンス(簿外債権・債務：ファイナンスリース)
第14回	株式発行による資金調達①(株式の歴史)
第15回	株式発行による資金調達②（株式発行、配当）
第16回	課題レポートの提出と発表

到達目標

① 現在の日本における「資金調達」の手法、実務について理解する。
② 各種の資金調達における調達条件、リスク等を客観的に正確に理解する。

履修上の注意

本講義は講義形式で行う。復習をしっかりと行うこと。
財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書）の仕組みを理解していることを受講条件とする。

予習・復習

講義では履修者が初めて聞くことが多いと推される（資金調達の方法や実務を解説した書物は大変少ない）。受講の後、復習を行い不明点、照会事項があれば積極的に質問してほしい。

評価方法

レポート 70%、授業への積極的な参加 30%で評価する。

テキスト

（教科書）福永肇著『病院ファイナンス』、日本医療企画、2020 年、2,800 円＋税
ISBN 978-4-86439-921-0

租税法特講　　佐藤　正勝

授業概要

本講義が対象とする領域は、租税法の解釈の分野であり、立法政策論の分野には、深入りしない。本講義が養成する能力は、租税法解釈に関する種々の専門的能力である。

ただし、租税法特論とは異なり、より専門的、より実践的、より高度な内容を講義する。したがって、なるべく、実例の論文等を適宜教材として使い、履修生からも履修生自身の博士論文を必要に応じて、教材として提供してもらう。したがって、教員のみが話し続けるというよりは、双方向での議論を通じて理解を深めていくような授業としたい。つまり、そのための準備をして履修生も授業に望むことになる。

適宜、佐藤メソッドの内容、方法を講義する。

授業計画

第１回	基礎概念：立法論・解釈論・事実認定・法適用と事例研究
第２回	法的思考：法的三段論法の事例研究
第３回	法的思考：事実・基準・効果の事例研究
第４回	法の解釈原理：事例研究
第５回	法解釈上の問題：問題の発見方法と事例研究
第６回	法解釈上の問題：問題点・議論点の意義・相違と事例研究
第７回	あるべき解釈探求の方法論：概説の事例研究
第８回	最も妥当な思想・学説決定の方法論：序説と事例研究
第９回	最も妥当な思想・学説決定の方法論：詳説と事例研究
第10回	具体的解釈基準探求の方法論：司法の法解釈からのアプローチの事例研究
第11回	具体的解釈基準探求の方法論：要件事実からのアプローチの事例研究
第12回	論理的思考の養成その１：本質へのアプローチの事例研究
第13回	論理的思考の養成その２：分析的アプローチと事例研究
第14回	論理的思考の養成その３：対立点の昇華の方法と事例研究
第15回	まとめ
第16回	期末レポート

到達目標

本講義が実現したい目標は、租税法の専門家として税法解釈上の正しい判断ができる能力・資質の向上に加え、租税法特論で学んだ内容を踏まえ、それに上乗せできる実践的な能力の向上を目指す授業とする。すなわち、論理的思考、分析的思考をフルに発揮して、論文作成能力及び実務での税務専門家としての能力のさらなる向上を目指した講義とする。

履修上の注意

学部において、租税法の講義を履修していること、学部で、租税法の卒業論文を書いていることにより、前期課程で、租税法特論を修了していることが好ましい。なお、租税法の博士論文を書く履修生が複数いる場合は、論文内容を発表してもらうなど、事例的に具体的に、実践を意識した授業にしたい。したがって、常に、授業内容について、自分なりの理解と疑問（及び意見）を持って臨んでもらいたい。なお、履修生は社会人院生であることが通常であるので、この科目も含め、博士論文関係科目を、基本的にオンラインで講義・指導する。

予習・復習

テキストや論文の事例を配布する予定である。これらのテキスト等の予習復習は、常に、実践を意識した[理解・訓練・実行]型の予習・復習としてもらいたい。

評価方法

「レポート」（70%）、「授業での発表態度（理解力の程度・質問への応答内容・意見陳述等の巧拙等）」（30%）で評価する。博士論文作成者を前提とするので、文章の書き方も評価対象となる。

テキスト

必要に応じて、教員が作成したテキストを配布する。可能なら、論文の実例などを参照しながら進めると効果的なので、必要に応じて配布することがある。なお、参考書は、金子宏著「租税法（第24版）」（弘文堂、2021年）。これより古い版であっても、内容によっては使用可である。

貨幣論特講　　藤井　大輔

授業概要

本講義では、博士前期課程での講義を深化・発展させ、博士論文の水準に必要な高度な知識の習得を目指す。現実の通貨危機の課題、特にアジア通貨危機とリーマン・ショック後のドル体制の不安定化の問題、中国やインドなど新興国の国際経済での発言力強化などを踏まえて、基軸通貨のあり方と通貨量の管理の問題を議論する。また授業中、受講大学院生の研究テーマに対応した研究論文について適宜取り上げ博士論文の内容に沿った講義をおこなう予定である。

授業計画

第１回　ガイダンス（この科目で学ぶこと、履修するうえでのルール説明）
第２回　貨幣の価値
第３回　貨幣と社会
第４回　貨幣としての金
第５回　富としての貨幣
第６回　信用貨幣
第７回　政府紙幣
第８回　電子マネー
第９回　貨幣数量説の経世
第10回　貨幣数量説を理解する
第11回　貨幣数量説批判政策としての貨幣管理説
第12回　貨幣管理の諸問題
第13回　国際基軸通貨とシニョレッジ（通貨発行益）の問題点
第14回　国際決済通貨としてのSDR（特別引出権）、バンコール（超国家的通貨）を考える
第15回　地域単一通貨ユーロの形成と問題点
第16回　期末試験

到達目標

本講義では貨幣・通貨問題を中心に、博士前期課程における研究を深化させ、博士論文作成のための高度な思考と分析力を養い、奇を衒わないものの、独創性ある視点から問題を解決する能力を育成することを目標とする。

履修上の注意

自分の問題・関心をもって授業に臨む。自分のテーマを報告する機会を設ける。各授業回ともディスカッションをする。履修生の研究状況によっては適宜、個別に課題を指定する場合がある。

予習・復習

授業中に扱う論文や原典については十分な予習をおこなうことを前提とし、常に自身の研究・論文の構想を計画する。

評価方法

①授業および課題への取り組みとディスカッション・ペーパー（40%）、②レポート（20%）、期末試験（40%）によって総合的に評価する。

テキスト

必携のテキストは用いない。履修生の研究内容、問題意識、関心に応じて、参考書籍・論文を紹介する。

金融論特講　　花崎　正晴

授業概要

この授業では、コーポレート・ファイナンスとコーポレート・ガバナンスに関連した諸問題を勉強します。モジリアーニ・ミラー理論を出発点として、情報の非対称性や各種の制度的制約が存在する場合に、企業の投資の決定と投資に必要な資金の調達に関する問題はどのように決定されるのかを理論的に考察します。また、企業金融と表裏一体の関係にあるコーポレート・ガバナンスの問題に着目し、コーポレート・ガバナンスの多様なメカニズムを理解したうえで、日本的システム、英米のシステムそして東アジア的システムを取り扱った各種の文献を解説します。

授業計画

第１回	オリエンテーション：この授業で学ぶこと
第２回	モジリアーニ・ミラー理論
第３回	最適資本構成の理論
第４回	情報の非対称性とモラル・ハザード
第５回	負債政策とペッキング・オーダー理論
第６回	エージェンシー理論
第７回	株主による経営者のモニタリング
第８回	経営者へのインセンティブ付与
第９回	企業コントロール市場の機能
第10回	系列とメインバンク・システム
第11回	ファミリー・ビジネス
第12回	CSR と ESG
第13回	銀行のガバナンス問題
第14回	法律とファイナンス
第15回	企業金融とコーポレート・ガバナンスの将来展望
第16回	期末レポートの提出

到達目標

- 企業金融、コーポレート・ガバナンス、金融危機、金融規制などの分野で、理論や実証分析に関する代表的な先行研究を読みこなすことができる。
- 同分野で、有意義かつ独自性のある分析ができる。

履修上の注意

受講生は、企業金融論、金融システム論、銀行論、計量経済学などの科目の大学院修士課程レベルの知識を備えていることが必要です。また、この授業では講義と受講生による英語論文の内容報告のハイブリッド形式で進める予定です。

予習・復習

各回の講義で予定されているテーマの概要を事前に理解するとともに、各回の授業終了後に内容を復習することを求めます。

評価方法

期末レポート 50%、報告内容 30%、授業への取り組み姿勢 20%。

テキスト

授業で取り上げる資料や文献等を、その都度紹介、配布します。

国際金融論特講　　秋場　勝彦

授業概要

本講義では、国際金融論・国際マクロ経済論に関する博士論文作成に必須となる国際金融の理論面を中心に講義する。しかし、受講学生の関心に応じて理論を検証するための実証分析、歴史、及び制度についてもできる限り講義する。この講義が、学生諸君にとって博士論文のテーマを考える切っ掛けとなるように講義を進めて行きたい。

なお、講義中、受講生の研究課題に即して適宜必要な学術論文を取り上げる。

授業計画

第１回	外国為替市場と国際収支統計
第２回	経常収支と国民経済計算
第３回	異時点間の最適消費：生産と経常収支
第４回	貿易財・非貿易財モデルにおける異時点間・同時点間の均衡
第５回	２国モデルと世界利子率
第６回	為替レートと経常収支
第７回	資本の限界生産性と国際資本移動
第８回	リスクの国際分散：最適ポートフォリオの決定
第９回	金融の国際化：グローバル化と国際資本移動
第10回	為替レートの決定理論（1）購買力平価説
第11回	為替レートの決定理論（2）開放マクロモデル
第12回	固定為替レートと外国為替介入
第13回	国際通貨システムの歴史
第14回	国際通貨システムの機能・特性・諸類型
第15回	累積債務問題
第16回	

到達目標

世界の金融資本市場が抱える今日的課題に対して理論的に考察することができる。

履修上の注意

この授業は、PBL（Project Based Learning）を積極的に用い、学生間での意見交換を重視し参加型の講義を行う。また、通常の学内教室以外で授業（学外授業）を実施する場合がある。なお、遅刻３回で欠席１回分にカウントする。授業において特別講師等を外部から招聘する場合がある。

必要なら学部レベルから丁寧に解説をしていくので、基礎知識がなくてもやる気さえあれば十分な能力を身につけられるように指導します。

評価方法

課題レポート100%で評価する。また、毎回出席を取る。

テキスト

特に指定はしないが、その都度推奨図書や参考図書を紹介し、その他必要に応じて、HP 等からのデータ引用を行う。

参考文献：河合正弘『国際金融論』（東京大学出版会）

リスク・マネジメント特講　　冨家　友道

授業概要

リスクマネジメントの基本知識をもとに、経営戦略におけるリスクマネジメントの位置付けを検討する。実際の経営での経営戦略の策定やその執行におけるリスクガバナンスについて検討し経営戦略においてリスクマネジメントがどのように機能するか検討する。

授業計画

第１回	オリエンテーション
第２回	リスクマネジメントの基礎知識１
第３回	リスクマネジメントの基礎知識２
第４回	リスクマネジメントと経営戦略
第５回	学生フィードバック
第６回	ケースの設定
第７回	ケーススタディー１
第８回	ケーススタディー１
第９回	ケーススタディー１
第10回	評価
第11回	ケーススタディー２
第12回	ケーススタディー２
第13回	ケーススタディー２
第14回	評価
第15回	ラップアップ
第16回	予備

到達目標

リスクマネジメントの経営戦略での活用の理解

履修上の注意

博士課程の講義であることから、講義主体ではなく学生自身の興味の分野についての深掘りを進めることを意図している。したがって、講義の期間で学生は自身の研究分野でのテーマを考えそれについての検討をすることが求められる。

予習・復習

自身の研究分野と関連したリスク管理の研究の予習が必要。

評価方法

講義を通じた研究の進展に応じ評価。

テキスト

特別研究指導Ⅰ　　花崎　正晴

授業概要

私の専門分野は、金融システム、コーポレート・ファイナンス、コーポレート・ガバナンス、ESG などの理論および実証研究であり、それらの分野における論文作成に必要とされる専門的な知識および実証分析手法を修得します。また、博士後期課程１年次の最後には博士論文執筆に向けての計画書を作成します。

授業計画

＜春期＞		＜秋期＞	
第１回	ガイダンス：研究指導の概要	第１回	金融システムに関する先行研究の読解
第２回	先行研究の収集	第２回	同上
第３回	コーポレート・ファイナンスに関する先行研究の読解	第３回	同上
第４回	同上	第４回	同上
第５回	同上	第５回	ESG に関する先行研究の読解
第６回	同上	第６回	同上
第７回	同上	第７回	同上
第８回	同上	第８回	同上
第９回	コーポレート・ガバナンスに関する先行研究の読解	第９回	実証分析手法の修得
第10回	同上	第10回	同上
第11回	同上	第11回	同上
第12回	同上	第12回	同上
第13回	同上	第13回	研究計画書の検討
第14回	同上	第14回	同上
第15回	同上	第15回	同上

到達目標

- 博士論文執筆に向けて、先行研究を十分に理解することができる。
- 自身の論文の問題意識を深めることができる。

履修上の注意

最終的に博士論文を完成させるというのは、膨大な時間と心身両面でのかなりの労力を要しますので、十分な覚悟を持って取り組んでください。

評価方法

各回の報告 50%、研究計画書の内容 50%。

テキスト

必要な文献は、適宜指示します。

特別研究指導Ⅱ　　花崎 正晴

授業概要

博士論文の執筆に関する指導を行います。博士論文は、関連性の深いテーマの下で、４本程度の独立した論文で構成されるのが一般的です。博士後期課程２年次では、２本程度の論文を執筆するとともに、学会や外部のセミナーなどで報告できるようになることが望ましいです。

授業計画

＜春期＞		＜秋期＞	
第１回	第１論文の計画書報告	第１回	第２論文の計画書報告
第２回	第１論文の修正計画書報告	第２回	第２論文の修正計画書報告
第３回	第１論文の作業経過報告	第３回	第２論文の作業経過報告
第４回	同上	第４回	同上
第５回	同上	第５回	同上
第６回	同上	第６回	同上
第７回	同上	第７回	同上
第８回	同上	第８回	同上
第９回	第１論文１次稿の完成と報告	第９回	第２論文１次稿の完成と報告
第10回	第１論文 １ 次稿の問題点の洗い出しと修正	第10回	第２論文 １ 次稿の問題点の洗い出しと修正
第11回	同上	第11回	同上
第12回	第１論文２次稿の完成と報告	第12回	第２論文２次稿の完成と報告
第13回	第１論文 ２ 次稿の問題点の洗い出しと修正	第13回	第２論文 ２ 次稿の問題点の洗い出しと修正
第14回	同上	第14回	同上
第15回	第１論文の完成と報告	第15回	第２論文の完成と報告

到達目標

- アカデミックに重要な貢献を含んだ学術論文を複数執筆することができる。

履修上の注意

博士論文を執筆するというのは、膨大な時間と心身両面でのかなりの労力を要しますので、十分な覚悟を持って取り組んでください。

評価方法

各回の報告と進捗状況 50%、論文の完成度合いとその内容 50%。

テキスト

必要な文献は、適宜指示します。

特別研究指導Ⅲ　　花崎 正晴

授業概要

博士論文の執筆に関する指導を行います。博士論文は、関連性の深いテーマの下で、４本程度の独立した論文で構成されるのが一般的です。博士後期課程３年次では、博士論文を完成させるとともに、学会報告や査読誌への投稿などができることが望ましいです。

授業計画

＜春期＞		＜秋期＞	
第１回	第３論文の計画書報告	第１回	第４論文の計画書報告
第２回	第３論文の修正計画書報告	第２回	第４論文の修正計画書報告
第３回	第３論文の作業経過報告	第３回	第４論文の作業経過報告
第４回	同上	第４回	同上
第５回	同上	第５回	同上
第６回	同上	第６回	同上
第７回	同上	第７回	第４論文１次稿の完成と報告
第８回	同上	第８回	第４論文 １ 次稿の問題点の洗い出しと修正
第９回	第３論文１次稿の完成と報告	第９回	同上
第10回	第３論文 １ 次稿の問題点の洗い出しと修正	第10回	第４論文２次稿の完成と報告
第11回	同上	第11回	第４論文２次稿の問題点の洗い出しと修正
第12回	第３論文２次稿の完成と報告	第12回	同上
第13回	第３論文 ２ 次稿の問題点の洗い出しと修正	第13回	第４論文の完成と報告
第14回	同上	第14回	博士論文の完成と提出
第15回	第３論文の完成と報告	第15回	最終試験の準備

到達目標

● アカデミックに重要な貢献を含んだ博士論文を完成させる。

履修上の注意

博士論文を執筆するというのは、膨大な時間と心身両面でのかなりの労力を要しますので、十分な覚悟を持って取り組んでください。

評価方法

各回の報告と進捗状況 50%、完成論文の内容 50%。

テキスト

必要な文献は、適宜指示します。

特別研究指導Ⅰ　　一戸　真子

授業概要

急速に変化、発展するヘルスケアサービスを取り巻くヘルスケア産業に関し理解を深め分析する能力を身に付けられるよう指導する。他の産業と比較してヘルスケアサービスの特徴と相違点について理解を深め、どのようなマネジメントが重要であるかについて研究指導する。望ましい健康・医療・介護経営のあり方について研究し、特に昨今の医薬品や医療機器・介護ロボット等の役割の重要性、医療安全や臨床研究も含めた質管理のあり方も含め、現状と課題点の抽出を行う。また、保健・医療・福祉・介護各分野の連携および連続性によりヘルスケアサービス提供がなされていることについて理解を深められるよう研究指導する。さらに、ヘルスケアサービスは、基本的には供給側も消費側も人間であるヒューマンサービスが基本であり、人事管理やコミュニケーションも重要な影響要因であることについて研究を発展させる。これらを総合し、自らの関心領域を絞り込み一連の研究を遂行出来るよう指導する。

授業計画

第１回	保健・医療・福祉・介護各分野の特徴	第１回	博士論文テーマの絞りこみ
第2回	ヘルスケアサービス・マネジメント	第２回	博士論文テーマに関するプレゼンテーション
第3回	医療経営・介護経営・健康経営	第３回	英語文献検討（1）
第4回	医薬品・医療機器・介護ロボット業界	第４回	英語文献検討（2）
第5回	課題の抽出および関心領域の絞り込み	第５回	英語検討（3）
第6回	文献検討（1）	第６回	英語検討（4）
第7回	文献検討（2）	第７回	研究デザインの検討
第8回	文献検討（3）	第８回	テーマに必要な文献リスト作成
第9回	関心テーマの設定	第９回	英語文献分析（1）
第10回	研究デザインの検討	第10回	英語文献分析（2）
第11回	テーマに必要な文献リスト作成	第11回	英語文献分析（3）
第12回	文献分析（1）	第12回	英語文献分析（4）
第13回	文献分析（2）	第13回	研究の中間的なとりまとめ
第14回	文献分析（3）	第14回	研究成果の報告
第15回	研究成果報告	第15回	研究成果の見直し
第16回	期末試験	第16回	期末試験

到達目標

・ヘルスケアサービス産業についての現状把握と課題の抽出ができる。
・医療経営・介護経営・健康経営についての理解を深められる。
・研究テーマを深く掘り下げることができる。
・英文文献研究をしっかりと行うことができる。

履修上の注意

自分の関心あるテーマについての絞り込みができ、また深く考察できるよう、毎講義前に予習を２時間程度、講研究内容の振り返りを習慣化し、講義後は２時間程度の復習をして欲しい。

評価方法

課題の抽出および理解力、文献収集・分析能力等を総合的に評価する。プレゼンテーション 20%、レポート課題 30%、期末試験 50%。

テキスト

受講生の研究テーマに応じて適宜指示する。

特別研究指導Ⅱ　　一戸　真子

授業概要

Ⅰで学んだヘルスケアサービスを取り巻く市場について更に理解を深められるよう研究指導する。ヘルスケアコンシューマーの消費行動や意思決定に影響を及ぼす因子抽出と支援、満足度を規定する要因、エンパワメントに必要な要素、情報の質と開示等について多面的に指導する。行政による医療計画を含む医療法や医療・介護保険システムや診療・介護報酬制度などのヘルスケアシステムについても理解を深め、開設主体や診療機能や規模などを考慮に入れ、ベスト・プラクティスを目指すためのマネジメントについて研究指導する。また、医師をはじめとする医療従事者のプロフェッショナリズム、QOL や働き方改革も含め、医療・介護現場の実態についての理解を深めた上で、研究内容を深められるよう指導する。一連の研究を通して、論文作成を行うための指導をする。

授業計画

第１回	ヘルスケアサービス市場の理解	第１回	必要文献の補強
第２回	ヘルスケアコンシューマー行動の理解	第２回	文献報告１
第３回	これまでの研究の整理と研究内容の見直し	第３回	文献報告２
第４回	学術論文テーマの明確化	第４回	学術論文作成１
第５回	学術論文の構成（目次）の作成	第５回	学術論文作成２
第６回	構成に基づく研究報告	第６回	学術論文作成３
第７回	研究報告１	第７回	学術論文作成４
第８回	研究報告２	第８回	学術論文作成５
第９回	研究報告３	第９回	研究内容見直し
第 10 回	研究報告４	第 10 回	学術論文作成・報告１
第 11 回	研究報告５	第 11 回	学術論文作成・報告２
第 12 回	ヘルスケアシステムの理解	第 12 回	学術論文作成・報告３
第 13 回	ベスト・プラクティスの理解	第 13 回	学術論文作成・報告４
第 14 回	研究の見直し	第 14 回	学術論文作成・報告５
第 15 回	オリジナリティーについての検討	第 15 回	研究成果の見直し
第 16 回	期末レポート試験（中間取りまとめ）	第 16 回	期末レポート試験（論文骨子作成）

到達目標

・ヘルスケアサービスを取り巻く社会においてどのような課題があり、具体的にどのような解決に向けての取組みが必要であるかについて理解できる。
・学術論文作成のプロセスが理解できる。
・論文のオリジナリティーを明確にすることができる。
・研究デザインの構築をしっかり行うことができる。
・論文作成のためのスキルを身につけることができる。

履修上の注意

自らがもっとも関心のあるテーマについて、学術論文としてまとめあげられるよう、しっかりと研究指導を受けることを求める。

課題ごとに予習・復習各３時間以上を要する。

評価方法

論文作成のプロセスの各点において評価する。
プレゼンテーション 20%、レポート 30%、期末レポート試験 50%。

テキスト

受講生の研究テーマに応じて適宜指示する。

特別研究指導Ⅲ　　一戸　真子

授業概要

Ⅱまでで学んだ知識や研究スキルをベースに、国際的な視点からヘルスケアサービスの質について学ぶ。ヘルスケアサービスのグローバル化が進むことによる効果、および新たに生じるリスクについても理解を深められるよう指導する。また医療・介護・健康経営に必要なマネジメント能力とはどのようなものかについても総合的に指導する。学術論文を完成させ、学会発表等を通じて、社会に還元可能なオリジナリティー豊かな学術論文が完成できるよう指導する。国際的な見地から自らの論文を客観視できるよう指導する。

授業計画

第１回	国際的視野からみたヘルスケアサービスの理解	第１回	論文見直し
第２回	海外文献研究１	第２回	論文修正１
第３回	海外文献研究２	第３回	論文修正２
第4回	海外文献研究３	第４回	論文修正３
第５回	博士論文テーマ・目的・方法最終決定	第５回	論文修正４
第６回	既発表論文の見直し	第６回	論文修正５
第７回	学会発表準備１	第７回	論文最終見直し
第８回	学会発表準備２	第８回	論文報告１
第９回	博士論文の構成（目次）の確定	第９回	論文報告２
第 10 回	文献リスト作成指導	第 10 回	論文報告３
第 11 回	論文作成１	第 11 回	論文報告４
第 12 回	論文作成２	第 12 回	論文報告５
第 13 回	論文作成３	第 13 回	論文最終とりまとめ
第 14 回	論文作成４	第 14 回	批判的検討
第 15 回	論文作成５	第 15 回	論文の提出
第 16 回	期末レポート試験（仮論文完成）	第 16 回	最終試験（論文発表）

到達目標

・学術論文を完成させる。
・学術論文作成のスキルが修得できる。
・グローバルな視点で研究を遂行する能力が身に付く。
・ヘルスケアサービス・マネジメントについて深い理解ができる。

履修上の注意

客観的な視点をもつこと、論理的な思考と整理能力を養えるよう努力すること。
毎日４時間程度の研究に従事する時間の確保をお願いしたい。

評価方法

学術論文作成能力および論文完成度から総合的に評価する。
博士論文作成 100%。

テキスト

適宜必要に応じて指示する。

特別研究指導Ⅰ　　佐藤　正勝

授業概要

基本的に１対１での個別指導を行う。ただし、履修生が複数の場合、必要に応じてゼミナール形式で行うこともある。第１年次前半は、「問題意識を明確」にして、「先行研究の豊富な読み込み」に基づいて、「適切なテーマを決定」する。１年次後半は、第一部（全体の３分の１程度）の完成を目指して、進める。

授業計画

＜前期＞		＜後期＞	
第１回	テーマ①：関心事項	第１回	第一部の構成（展開方法）
第２回	テーマ②：その分野の現状分析	第２回	第一部の文献読み込み①
第３回	テーマ③：問題点洗い出し	第３回	第一部の文献読み込み②
第４回	テーマ④：問題点評価	第４回	第一部の文献読み込み③
第５回	テーマ⑤：粗々のテーマ決定	第５回	第一部の作成①
第６回	テーマ⑥：先行研究の調査①	第６回	第一部の作成②
第７回	テーマ⑦：先行研究の調査②	第７回	第一部の作成③
第８回	テーマ⑧：先行研究の調査③	第８回	第一部の作成④
第９回	テーマ⑨：テーマ絞り込み①	第９回	第一部の作成⑤
第10回	テーマ⑩：テーマ絞り込み②（決定）	第10回	第一部の作成⑥
第11回	先行研究①：報告①	第11回	第一部の作成⑦
第12回	先行研究②：報告②	第12回	第一部の作成⑧
第13回	先行研究③：報告③	第13回	第一部のチェック・まとめ①
第14回	論文アプローチ	第14回	第一部のチェック・まとめ②
第15回	論文構成（全体の展開方法）	第15回	第一部のチェック・まとめ③

到達目標

仮に、博士論文全体が合計３つの部からなる場合、第１年次には、第一部の完成、２年次の春期には、第二部の完成、２年次の秋期には第三部の完成を目標とするイメージで進めた方が良い。また、各年次においては、２万字程度の個別研究論文１、２本を発表することが望まれる。これら数本の個別論文（可能な限り関連学会で発表すること）が、博士論文の下地になるイメージである。

履修上の注意

授業の度に、毎回報告する。報告に当たっては、春期は全ての回を通じて、論者比較表の提出を、それ以降特別研究指導Ⅲを修了するまでは、四点セット（説明・質問等メモ、要旨、本文、論理展開図）を指導の事前に提出する。特に、研究科で発表会がある場合はその前に、発表内容の完成度を特に上げた内容で報告をすること。博士論文の作成は、指導教授からの指示を待っているようでは、完成はおぼつかない。全て自ら考えて、自ら実施し、積極的に進めるという意識で履修すること。文献の収集、読み込み、特に批判的思考は重要である。なぜなら、論文の中の独創性は、地道な先行研究の調査と批判的精神からのみ生まれるのだから。さらに、論文の意義を高めるために、論文の目的から逆算して、先行研究に足りないところは何かという意識を、３年間、常に持ち続けて、論文作成に集中すること。なお、論文のどの箇所を執筆する場合であっても、①今書いているこの箇所は全体の中でどう位置付くのか、それは明確か、②次以降に書く内容との論理的な繋がりがあるか、それは適切か、③今書いたことの根拠を書いたか、書いたならその根拠の提示は具体的かつ明確で十分な提示となっているか、④今書いたことの意味は何か、その意味は論文の中でどの程度重要性を持つのか、等に留意して、記述を進めることが大切である（特別研究指導Ⅲまで同じ）。なお、履修生は社会人院生であること等もあり、この科目も含め、修士論文関係科目を、基本的に、オンラインで講義・指導する。

評価方法

基本的に、研究の進度と深度（発表内容の質の高さを含む）で評価する。

テキスト

必要に応じて指示する。なお、参考書は、金子宏著「租税法（第 24 版）」（弘文堂、2021 年）(最新版)とする。

特別研究指導Ⅱ　　佐藤　正勝

授業概要

基本的に１対１での個別指導を行う。ただし、履修生が複数の場合、必要に応じてゼミナール形式で行うこともある。第２年次前半は、第二部の完成を目指して進める。２年次後半は、第三部の完成を目指して、進める。

授業計画

＜前期＞		＜後期＞	
第１回	第二部の構成（展開方法）	第１回	第三部の構成（展開方法）
第２回	第二部の文献読み込み①	第２回	第三部の文献読み込み①
第３回	第二部の文献読み込み②	第３回	第三部の文献読み込み②
第４回	第二部の文献読み込み③	第４回	第三部の文献読み込み③
第５回	第二部の作成①	第５回	第三部の作成①
第６回	第二部の作成②	第６回	第三部の作成②
第７回	第二部の作成③	第７回	第三部の作成③
第８回	第二部の作成④	第８回	第三部の作成④
第９回	第二部の作成⑤	第９回	第三部の作成⑤
第10回	第二部の作成⑥	第10回	第三部の作成⑥
第11回	第二部の作成⑦	第11回	第三部の作成⑦
第12回	第二部の作成⑧	第12回	第三部の作成⑧
第13回	第二部のチェック・まとめ①	第13回	第三部のチェック・まとめ①
第14回	第二部のチェック・まとめ②	第14回	第三部のチェック・まとめ②
第15回	第二部のチェック・まとめ③	第15回	第三部のチェック・まとめ③

到達目標

仮に、博士論文が合計３部からなる場合、第２年次の春期には、第二部の完成、２年次の秋期には第三部の完成を目標とするイメージで進めた方が良い。また、各年次においては、２万字程度の個別研究論文を、1-2 本を発表することが望まれる。これら数本の個別論文が、博士論文の下地になるイメージである。

履修上の注意

授業の度に、毎回報告する。報告に当たっては、特別研究指導Ⅲを修了するまでは、四点セット（説明・質問等メモ、要旨、本文、論理展開図）を事前に提出する。特に、発表会がある場合はその前に、発表内容の完成度を特に上げた内容で報告をすること。博士論文の作成は、指導教授からの指示を待っているようでは、完成はおぼつかない。全て自ら考えて、自ら実施し、積極的に進めるという意識で履修すること。文献の収集、読み込み、特に批判的思考は重要である。なぜなら、論文の中の独創性は、地道な先行研究の調査と批判的精神からのみ生まれるのだからである。さらに、論文の意義を高めるために、論文の目的から逆算して、先行研究に足りないところは何かという意識を、３年間、常に持ち続けて、論文作成に集中し、授業に出席すること。

なお、論文のどの箇所を執筆する場合であっても、①今書いているこの箇所は全体の中でどう位置付くのか、それは明確か、②次に書く内容との論理的な繋がりがあるか、それは適切か、③今書いたことの根拠を書いたか、書いたならその根拠の提示は具体的かつ明確で十分な提示となっているか、④今書いたことの意味は何か、その意味は論文の中でどの程度重要性を持つのか、等に留意して、記述を進めることが大切である。なお、履修生は社会人院生であること等もあり、この科目も含め、修士論文関係科目を、基本的に、オンラインで講義・指導する。

評価方法

基本的に、研究の進度と深度（発表内容の質の高さを含む）に対して 100%配分で評価する。

テキスト

必要に応じて、指示する。なお、参考書は、基本的に、金子宏著「租税法（第 24 版）」（弘文堂、2021 年）とする。

特別研究指導Ⅲ　　佐藤　正勝

授業概要

基本的に１対１での個別指導を行う。ただし、履修生が複数の場合、必要に応じてゼミナール形式で行うこともある。第３年次前半は、「①論文全体の大きな論理につき、骨折れ(論理の欠陥)がないか」、「②（追加的な文献の読み込み等により）補強の必要な箇所の改善」を図る。第３年次後半は、中間報告会への対応及び論文の細部の詰めまでを含め、最後の修正の期間とする。

授業計画

＜前期＞		＜後期＞	
第１回	論文全体のチェック①	第１回	論文全体のチェック①
第２回	論文全体のチェック②	第２回	論文全体のチェック②
第３回	追加文献による補強①	第３回	論文全体のチェック③
第４回	論文全体のチェック③	第４回	論文全体のチェック④
第５回	論文全体のチェック④	第５回	論文全体のチェック⑤
第６回	追加文献による補強②	第６回	論文全体のチェック⑥
第７回	論文全体のチェック⑤	第７回	論文全体のチェック⑦
第８回	論文全体のチェック⑥	第８回	論文全体のチェック⑧
第９回	追加文献による補強③	第９回	論文全体のチェック⑨
第10回	論文全体のチェック⑦	第10回	論文全体のチェック⑩
第11回	論文全体のチェック⑧	第11回	論文全体のチェック⑪
第12回	追加文献による補強④	第12回	論文全体のチェック⑫
第13回	論文全体のチェック⑨	第13回	論文全体のチェック⑬（最終試験準備）
第14回	論文全体のチェック⑩	第14回	論文全体のチェック⑭（最終試験準備）
第15回	追加文献による補強⑤	第15回	論文全体のチェック⑮（最終試験準備）

到達目標

仮に、博士論文が合計３つの部からなる場合、すでに論文中身の第３部まで全て一応執筆し終わっていることを前提とすると、第３年次の春期に実施することは、「①柱となる論理展開に瑕疵がないこと」、「②追加的な文献の読み込み等により補強の必要な箇所の改善を図ること」を主として実施する。第３年次後半は、論文の細部の詰めまでを含め、最後の修正の期間である。すなわち、（文章と文章との間、段落と段落の間をつなぐ）細かい論理展開が明確か、用いた用語・表現に不適切な箇所がないか、主語述語は一文に一つのみの組合わせとなっているか、一つ文章の文字数が多すぎることはないか、接続詞を用いた明快な論理展開が実現されているか、助詞の用法に間違いがないか、引用のルールが守られているか、脚注のルールと充実度は妥当か、参考資料の書き方に問題はないか、等注意する必要がある。なお、第３年次は、中間報告会への対応及び論文コメントへの対応（論文の修正）が、合否を左右する重要事項である。

履修上の注意

授業の度に、毎回報告する。報告に当たっては、特別研究指導Ⅲを修了するまでは、四点セット（説明・質問等メモ、要旨、本文、論理展開図）を事前に提出する。特に、中間報告会等の発表会がある場合はその前に、発表内容の完成度を特に上げた内容で報告をすることが望まれる。なお、論文のどの箇所を執筆する場合であっても、①今書いているこの箇所の全体の中の位置付けは何か、それは明確か、②次に書くこととの論理的な繋がりがあるか、それは適切か、③今書いたことの根拠を述べたか、述べたならその根拠の提示は具体的かつ明確で十分な提示となっているか、④今書いたことの意味は何か、その意味は論文の中での必要性はどの程度なのか、等に留意して、記述を進めることが、（特に、第３年次は、細部のチェックをして完成させる最後の時期であるので）、大切である。

評価方法

基本的に、研究の進度と深度（発表内容の質の高さを含む）に対して 100%配分で評価する。

テキスト

必要に応じて指示する。なお、参考書は、基本的に、金子宏著「租税法（第 24 版）」（弘文堂、2021 年）とする。

特別研究指導Ⅰ　塩谷さやか

授業概要

博士論文作成のための方法論、基礎知識を修得する。
1)論文テーマに関する問題設定、課題の抽出とテーマの絞り込み
2)基本的な文献収集とその理解
3)論テーマに沿った先行研究の論点整理

授業計画

＜前期＞		＜後期＞	
第１回	受講生の問題意識の確認	第１回	博士論文の構成と作成方法
第２回	論文テーマに関しての大まかな検討	第２回	博士論文の構成と作成方法
第３回	論文テーマに関しての基本文献調査	第３回	論文構成に必要な文献の整理
第４回	基本文献の報告	第４回	文献の検討と報告
第５回	同上	第５回	同上
第６回	同上	第６回	同上
第７回	同上	第７回	同上
第８回	同上	第８回	同上
第９回	論文テーマの絞り込み	第９回	研究の中間的なまとめ
第10回	先行研究の文献リストの作成	第10回	同上
第11回	先行研究の報告	第11回	同上
第12回	同上	第12回	同上
第13回	同上	第13回	同上
第14回	同上	第14回	同上
第15回	研究の報告と論点整理	第15回	研究成果の報告

到達目標

・論文構成に必要な論理的思考能力と、先行研究を踏まえた論点の整理ができる能力などを身に付けることを目標とする。

履修上の注意

・問題意識のもとに設定する論文テーマに基づいた先行研究などの研究文献を丹念に調査し、学生と学ぶと共に、それに関しての報告ができるようにすること。

評価方法

・報告と積極的な議論への参加を総合的に評価します。

テキスト

・研究テーマに即して、適宜指示します。

特別研究指導Ⅱ　塩谷さやか

授業概要

学術論文の作成と発表を指導する。この学術論文は、博士論文を提出する前提であるだけではなく、博士論文を構成する重要な論点の一つである。このため、論点の明確化は言うに及ばず、先行研究との関係性を論じることができるように研鑽すること。

また、論文構成の妥当性、合理性、そして新規性を意識した研究ができるように指導する。

授業計画

＜前期＞		＜後期＞	
第１回	学術論文のテーマを明確にする	第１回	論文の作成と報告
第２回	学術論文の構成の作成	第２回	同上
第３回	構成に即しての研究報告	第３回	同上
第４回	同上	第４回	同上
第５回	同上	第５回	同上
第６回	同上	第６回	同上
第７回	同上	第７回	研究の見直し
第８回	同上	第８回	論文の作成と報告
第９回	同上	第９回	同上
第10回	研究の見直し	第10回	同上
第11回	研究の報告	第11回	同上
第12回	同上	第12回	同上
第13回	同上	第13回	同上
第14回	同上	第14回	学術論文の報告と指導
第15回	研究成果の報告	第15回	学術論文の報告と指導

到達目標

・論文構成に必要な論理的思考力と、先行研究を踏まえた論点の整理ができる能力などを身につけること。さらに、論文内容が独自性と新規性を備えるために必要な思考能力も身に付けることを目標とします。

履修上の注意

・学術論文を作成するための研鑽と報告を適宜行うこと。

評価方法

・今年度までの研究の新着状況及び作成した学術論文の成果により評価する。

テキスト

・研究テーマに即して、適宜指示します。

特別研究指導Ⅲ　　塩谷さやか

授業概要

２年次に発表した学術論文を踏まえ、博士論文のテーマと論点を再確認すると共に、先行研究の再確認を行ったうえでの論文整理を行い、オリジナリティや新規性のある論文の作成ができているか確認し指導する。また、この博士論文の作成を通じて得た知見を活かした更なる研究に踏み出すことができるように指導する。

授業計画

＜前期＞		＜後期＞	
第１回	博士論文のテーマと論点の再確認	第１回	論文の構成と報告
第２回	論文の研究方法の再確認	第２回	同上
第３回	先行研究の再確認と補強	第３回	同上
第４回	文献報告	第４回	同上
第５回	同上	第５回	同上
第６回	同上	第６回	中間報告会の資料作成
第７回	中間報告会の資料作成	第７回	同上
第８回	中間報告会の資料作成	第８回	論文の作成と報告
第９回	博士論文の構成の確定	第９回	同上
第10回	論文作成と報告	第10回	同上
第11回	同上	第11回	同上
第12回	同上	第12回	博士論文の提出
第13回	同上	第13回	残された課題の整理
第14回	同上	第14回	最終試験の準備
第15回	研究のまとめ	第15回	最終試験の準備

到達目標

・論理的な思考能力の充実と、独自性と新規性を備えている論文を作成するだけではなく、次なる研究に広がるような研究能力を身に付けることを目標とします。

履修上の注意

・論文作成の指導に頼ることなく、自主的な研究の取り組みによる研鑽を積み重ねるという姿勢が求められます。

評価方法

・博士論文作成に至るまでの研究者としての研究姿勢を評価します。

テキスト

・研究テーマに即して、適宜指示します。

特別研究指導Ⅰ　　張　　英莉

授業概要

博士論文を完成するための準備作業を行う
（1）受講生の問題意識の明確化と論文テーマの設定
（2）史・資料、基本文献、統計データのリストアップ
（3）当該領域の先行研究の検討と論点の整理
（4）主要基本文献の精読と報告
（5）以上に基づいて、論文の構成案を作成する

授業計画

＜前期＞		＜後期＞	
第１回	受講生の問題意識の確認、意見交換	第１回	新しい研究成果の確認、文献リストの補強
第２回	同上	第２回	文献の再検討
第３回	テーマの設定	第３回	史・資料の精読と報告
第４回	史・資料、基本文献の調査とリストの作成	第４回	同上
第５回	同上	第５回	同上
第６回	同上	第６回	同上
第７回	同上	第７回	同上
第８回	基本文献の精読と報告：主要論点の確認	第８回	同上
第９回	同上	第９回	同上
第10回	同上	第10回	同上
第11回	同上	第11回	同上
第12回	同上	第12回	論文の構成案の作成、討議
第13回	同上	第13回	同上
第14回	論点の整理と確認	第14回	論文の構成案の修正
第15回	同上	第15回	同上

到達目標

①基本的な文献資料は概ね精読し、理解できる。
②自らの研究と先行研究との論点の共通点・相違点を正確に把握することができる。
③論文の構成案を作成できる。

履修上の注意

必要な基礎知識、調査スキルを十分に習得しておくこと。
指導教官に過度に依存せず、能動的・意欲的に課題に取り組むこと。

評価方法

論文への取組み状況と課題の完成度 80%、期末試験 20%で評価する。

テキスト

テキストは使用しない。進捗状況に応じてリストにある文献を指示または推奨する。

特別研究指導Ⅱ　　張　　英莉

授業概要

初年度に行った史料・資料の精読、先行研究への批判的検討の結果に基づき、自らの新しい論点と論文のオリジナリティーを明確化し、年度前半に博士論文の一部となる学術論文の執筆、年度後半に書き上げた論文の全部または完成度の高い部分を学会で発表し、学会誌などに掲載できるように研究指導を行う。

授業計画

＜前期＞		＜後期＞	
第１回	博士論文の論点とオリジナリティーの明確化	第１回	年度前半の研究内容の振り返り、後半の研究課題の再確認
第２回	同上	第２回	学術論文の作成・報告
第３回	学術論文のテーマ・構成についての検討	第３回	同上
第４回	同上（テーマの適切性、実証の可能性など）	第４回	同上
第５回	構成に即した研究報告	第５回	同上
第６回	同上	第６回	同上
第７回	同上	第７回	同上
第８回	同上	第８回	同上
第９回	同上	第９回	同上
第10回	同上	第10回	報告内容の再検討・見直し
第11回	同上	第11回	同上
第12回	同上	第12回	研究報告
第13回	テーマ、構成の見直し	第13回	研究報告
第14回	史・資料の追加・補強	第14回	学術論文の提出と博士論文第一次稿の完成
第15回	研究報告の問題点の確認	第15回	同上

到達目標

①学会報告および執筆論文の学会誌での掲載発表
②博士論文第一次稿の完成

履修上の注意

①学会報告、学術論文の掲載発表を必ず達成するよう最大限に努力すること
②指導教官の指示に従いながら、能動的・意欲的に研究課題に取り組むこと

評価方法

論文への取組み状況と課題の完成度 80%、期末試験 20%で評価する。

テキスト

文献は必要に応じてその都度指示する。

特別研究指導Ⅲ　　張　　英莉

授業概要

最終年度において、次のように研究指導を行う。
①学会発表時の質疑応答の内容を吟味し、不足する文献資料を補強すると同時に、問題点を解決させる。
②博士論文を期限まで確実に完成させるために、年間、月間、週間の綿密な予定表を作成し、予定内容の完成度をチェックする。
③年度前半に論文の第二次稿を提出させる。
④年末に論文の内容、形式などを細部まで確認・修正し、論文を完成させる。

授業計画

＜前期＞		＜後期＞	
第１回	学会発表の結果の検討	第１回	第二次稿の修正箇所の再確認
第２回	同上	第２回	同上
第３回	第二次稿作成のための報告	第３回	第三次稿の作成
第４回	同上	第４回	同上
第５回	同上	第５回	中間報告会の準備
第６回	同上	第６回	同上
第７回	中間報告会の準備	第７回	第三次稿のとりまとめ
第８回	同上	第８回	同上
第９回	第二次稿作成のための修正	第９回	同上
第10回	同上	第10回	最終稿のとりまとめ
第11回	同上	第11回	同上
第12回	同上	第12回	同上
第13回	同上	第13回	博士論文の完成・提出
第14回	論文構成、各章タイトルの適切性の再確認	第14回	最終試験の準備
第15回	第二次稿の完成	第15回	同上

到達目標

①所定の期限内に博士論文を完成すること
②独創性豊かな自立した研究者の養成

履修上の注意

論文の問題点の発見と解決を意欲的に取り組む姿勢を求めたい。

評価方法

博士論文の完成度と研究者としての自立性（100%）で評価する。

テキスト

必要に応じて指示する。

特別研究指導Ⅰ　　福永　　肇

授業概要

博士論文作成のための方法論、基本知識を習得する。そのために以下を指導する。

① 博士論文テーマに関する問題設定とテーマの絞り込み。
② テーマの問題設定のための基本的および広範囲な文献収集とその理解。
③ 論文テーマに沿った先行研究の論点の整理

授業計画

＜前期＞		＜後期＞	
第１回	受講院生の問題意識の確認	第１回	博士論文の方法論に関する指導
第２回	論文テーマに関してのラフな検討	第２回	博士論文の構成の作成
第３回	論文テーマに関連した基本的文献収集	第３回	論文構成に必要な文献の整理と収集
第４回	基本的文献のリスト作成	第４回	文献の検討と報告・討論
第５回	基本的文献に関する報告・討論	第５回	文献の検討と報告・討論
第６回	基本的文献に関する報告・討論	第６回	文献の検討と報告・討論
第７回	基本的文献に関する	第７回	文献の検討と報告・討論
第８回	博士論文テーマの絞り込み	第８回	論文の構成（論理展開）を検討
第９回	論文テーマに即した先行文献リスト作成	第９回	研究の中間的なとりまとめ
第10回	先行文献に関する報告・討論	第10回	研究の中間的なとりまとめ
第11回	先行文献に関する報告・討論	第11回	研究の中間的なとりまとめ
第12回	先行文献に関する報告・討論	第12回	研究の中間的なとりまとめ
第13回	先行文献に関する報告・討論	第13回	研究の中間的なとりまとめ
第14回	先行文献に関する報告・討論	第14回	研究の中間的なとりまとめ
第15回	研究報告と論点整理、研究課題の確認	第15回	研究成果の報告

到達目標

研究に対する問題意識をクリアにし、先行文献を読んで研究・検討し、論文テーマを絞り込む。その後、論文の構成（論理展開）を作成する。

履修上の注意

論文テーマに関連した先行文献を読了し、批判力を付けること。

評価方法

授業での報告と研究の進捗状況により総合的に評価する。

テキスト

研究テーマに即して適宜指示する。

特別研究指導Ⅱ　　福永　　肇

授業概要

博士論文作成のための草稿（第一次稿）作成を目標とし、そのために以下を指導する。

① 博士論文テーマに関する問題設定を明確にする。
② 論文テーマに沿った先行研究を批判的に分析し、自分の論点との相違を整理。
③ 研究成果を学会、学会誌、ワークショップなどで公開していく。

授業計画

＜前期＞		＜後期＞	
第１回	博士論文のテーマを明確にする	第１回	博士論文の作成・報告・討論
第２回	博士論文の論文構成（目次）の作成	第２回	博士論文の作成・報告・討論
第３回	論文構成に即して順次研究報告・討論	第３回	博士論文の作成・報告・討論
第４回	論文構成に即して順次研究報告・討論	第４回	博士論文の作成・報告・討論
第５回	論文構成に即して順次研究報告・討論	第５回	博士論文の作成・報告・討論
第６回	論文構成に即して順次研究報告・討論	第６回	博士論文の作成・報告・討論
第７回	論文構成に即して順次研究報告・討論	第７回	博士論文の作成・報告・討論
第８回	論文構成に即して順次研究報告・討論	第８回	研究の中間的なとりまとめ
第９回	論文構成に即して順次研究報告・討論	第９回	研究報告
第10回	論文構成に即して順次研究報告・討論	第10回	研究の見直し
第11回	論文構成に即して順次研究報告・討論	第11回	博士論文の作成・報告・討論
第12回	論文テーマ・論文構成の見直し	第12回	博士論文の作成・報告・討論
第13回	先行文献に関する報告・討論	第13回	博士論文の作成・報告・討論
第14回	先行文献に関する報告・討論	第14回	博士論文の作成・報告・討論
第15回	研究報告と論点整理、研究課題の確認	第15回	博士論文草稿（第一次稿）の提出

到達目標

博士論文の草稿（第一次稿）提出。
論文の新規性、オリジナリティの明確化。

履修上の注意

学術論文の基本的要件（研究テーマの学術的意味、新規性、オリジナリティ、先行研究検索、論理構成、分析手法、問題設定と結論の整合性など）を守って論文執筆をすることが重要。

評価方法

提出された博士論文草稿（第一次稿）にて評価する。

テキスト

研究テーマに即して適宜指示する。

特別研究指導Ⅲ　　福永　　肇

授業概要

博士論文の完成、提出のために以下を指導する。

① 二年次に作成した博士論文草稿（第一次稿）を基礎にした草稿（第二次稿）を春期に提出させる。
② 論文作成のタイムスケジュール管理を厳格に行い、期限内の完成を指導する。
③ 関連学会のレベルを満たす博士論文の完成を指導する。

授業計画

＜前期＞		＜後期＞	
第１回	博士論文のテーマの確認	第１回	博士論文の作成・報告
第２回	論文の研究方法、論点の再確認	第２回	博士論文の作成・報告
第３回	先行研究、必要文献の見直し	第３回	博士論文の作成・報告
第４回	研究報告・討論	第４回	博士論文の作成・報告
第５回	研究報告・討論	第５回	博士論文の作成・報告
第６回	研究報告・討論	第６回	中間報告会資料作成
第７回	中間報告会の資料作成	第７回	中間報告会資料作成
第８回	中間報告会の資料作成	第８回	博士論文の作成・報告
第９回	博士論文の構成（目次）の確定	第９回	博士論文の作成・報告
第10回	博士論文の作成・報告	第10回	博士論文の作成・報告
第11回	博士論文の作成・報告	第11回	博士論文の作成・報告
第12回	博士論文の作成・報告	第12回	残された課題の整理
第13回	博士論文の作成・報告	第13回	論文の提出
第14回	博士論文の作成・報告	第14回	最終試験準備
第15回	博士論文草稿（第２次稿）提出	第15回	最終試験準備

到達目標

３年次春期に博士論文草稿（第２次稿）を提出。
学術上での意義がある博士論文を完成する

履修上の注意

論文作成のタイムスケジュール管理を厳格に行い、余裕をもって期限内に論文を完成し提出すること。

評価方法

博士論文の完成と研究者としての姿勢。

テキスト

研究テーマに即して適宜指示する。

特別研究指導Ⅰ　　文　智彦

授業概要

論文のテーマを設定し、研究方法について考察し、先行研究について分析するための指導をする。
そのために、受講者による発表と教員との議論を厳密に行う。

授業計画

＜前期＞		＜後期＞	
第１回	ガイダンス	第１回	論文の各章の報告
第２回	論文の研究テーマの報告	第２回	論文の各章の報告
第３回	論文の研究テーマの報告	第３回	論文の各章の報告
第４回	論文の研究テーマの報告	第４回	論文の各章の報告
第５回	論文の研究テーマの報告	第５回	論文の各章の報告
第６回	論文の研究テーマの設定	第６回	論文の各章の報告
第７回	研究アプローチに関する指導	第７回	論文の再検討
第８回	研究アプローチに関する指導	第８回	論文の再検討
第９回	論文テーマに基づく先行研究分析	第９回	論文の再検討
第10回	論文テーマに基づく先行研究分析	第10回	論文の再検討
第11回	論文テーマに基づく先行研究分析	第11回	論文の再検討
第12回	論文テーマに基づく先行研究分析	第12回	論文の修正
第13回	論文の構成	第13回	論文の修正
第14回	論文の構成	第14回	論文の報告
第15回	論文の報告	第15回	論文の報告

到達目標

博士論文執筆のための基本文献の収集と分析、研究方法についての理解、博士論文テーマの方向性の設定

履修上の注意

綿密な文献分析を求める。

評価方法

先行研究と研究方法についての理解度と研究テーマの独創性

テキスト

指定しない

特別研究指導Ⅱ　　文　智彦

授業概要

博士論文のテーマの再確認・論文の構成の検討・各章の吟味、等々を行う。
研究アプローチ・先行文献の分析の妥当性を検討する。
妥当な研究テーマを設定し、論文の全体像を提示することができるよう指導する。

授業計画

＜前期＞		＜後期＞	
第１回	研究テーマの確認	第１回	論文の前半部分の報告
第２回	研究の方向性の検討	第２回	論文の前半部分の報告
第３回	研究の進度および予定の確認	第３回	論文の前半部分の報告
第４回	研究テーマの報告	第４回	論文の前半部分の報告
第５回	研究テーマの報告	第５回	論文の前半部分の報告
第６回	先行研究の分析・報告	第６回	論文の前半部分の報告
第７回	先行研究の分析・報告	第７回	論文の後半部分の報告
第８回	先行研究の分析・報告	第８回	論文の後半部分の報告
第９回	論文構成の検討	第９回	論文の後半部分の報告
第10回	論文構成の検討	第10回	論文の後半部分の報告
第11回	論文構成の検討	第11回	論文の後半部分の報告
第12回	序論部分の報告	第12回	論文の後半部分の報告
第13回	序論部分の報告	第13回	論文の全体を報告
第14回	序論部分の報告	第14回	論文の全体を報告
第15回	前期の総括	第15回	論文の全体を報告

到達目標

妥当な研究テーマを設定し、論文の構成を検討し、論文の全体像をまとめ上げる。

履修上の注意

論文執筆のために先行文献を徹底して分析し、議論し、検討することを求める。

評価方法

論文の進捗状況と研究姿勢

テキスト

適宜指示する

特別研究指導Ⅲ　　文　智彦

授業概要

博士論文の執筆と報告を中心に指導を行う。
論文のテーマ・構成・各章の内容について再検討し、最終的な論文を作成する。

授業計画

＜前期＞		＜後期＞	
第１回	論文のテーマ・方向性・進度・今後の予定を確認	第１回	各章の執筆と報告
第２回	研究テーマの再検討	第２回	各章の執筆と報告
第３回	研究テーマの再検討	第３回	各章の執筆と報告
第４回	研究テーマの確定	第４回	各章の執筆と報告
第５回	論文構成の再検討	第５回	各章の執筆と報告
第６回	論文構成の再検討	第６回	論文発表
第７回	論文構成の確定	第７回	各章の執筆と報告
第８回	各章の執筆と報告	第８回	各章の執筆と報告
第９回	各章の執筆と報告	第９回	各章の執筆と報告
第10回	各章の執筆と報告	第10回	各章の執筆と報告
第11回	各章の執筆と報告	第11回	各章の執筆と報告
第12回	各章の執筆と報告	第12回	完成論文の提出
第13回	各章の執筆と報告	第13回	完成論文の発表
第14回	各章の執筆と報告	第14回	完成論文の最終修正
第15回	論文発表	第15回	最終試験の準備

到達目標

博士論文の完成あるいは完成に向けた準備を行う。

履修上の注意

論文の執筆と報告を徹底して行う。

評価方法

論文の完成度と研究姿勢

テキスト

適宜指示する

特別研究指導Ⅰ（Ⅱ・Ⅲ）　藤井　大輔

授業概要

〈特別研究指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ共通〉　博士後期課程の大学院生に、博士論文作成に向けて、学会での報告、学術雑誌等への論文投稿を含め、総合的に研究指導する。研究・論文の主領域は、交通事業・観光事業・まちづくりの経済学、交通政策、公民連携（PPP：Public-Private Partnership）である。なお、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで履修生に求めるレベルは異なる。

授業計画

＜前期＞

第 1 回	ガイダンス・前年度のふりかえり
第 2 回	今年度の研究計画（学会報告・論文投稿等）の報告・議論(1)
第 3 回	今年度の研究計画（学会報告・論文投稿等）の報告・議論(2)
第 4 回	問題意識に基づくアウトライン指導(1)
第 5 回	問題意識に基づくアウトライン指導(2)
第 6 回	今年度の研究計画に基づく研究内容の報告・議論・指導（含学会報告準備等）(1)
第 7 回	今年度の研究計画に基づく研究内容の報告・議論・指導（含学会報告準備等）(2)
第 8 回	今年度の研究計画に基づく研究内容の報告・議論・指導（含学会報告準備等）(3)
第 9 回	今年度の研究計画に基づく研究内容の報告・議論・指導（含学会報告準備等）(4)
第 10 回	今年度の研究計画に基づく研究内容の報告・議論・指導（含学会報告準備等）(5)
第 11 回	今年度の研究計画に基づく研究内容の報告・議論・指導（含学会報告準備等）(6)
第 12 回	今年度の研究計画に基づく研究内容の報告・議論・指導（含学会報告準備等）(7)
第 13 回	今年度の研究計画に基づく研究内容の報告・議論・指導（含学会報告準備等）(8)
第 14 回	今年度の研究計画に基づく研究内容の報告・議論・指導（含学会報告準備等）(9)
第 15 回	長期休業中の研究行程表を検討する

＜後期＞

第 1 回	問題意識に基づくアウトライン指導(1)
第 2 回	問題意識に基づくアウトライン指導(2)
第 3 回	今年度の研究計画に基づく研究内容の報告・議論・指導（含学会報告準備等）(1)
第 4 回	今年度の研究計画に基づく研究内容の報告・議論・指導（含学会報告準備等）(2)
第 5 回	今年度の研究計画に基づく研究内容の報告・議論・指導（含学会報告準備等）(3)
第 6 回	今年度の研究計画に基づく研究内容の報告・議論・指導（含学会報告準備等）(4)
第 7 回	今年度の研究計画に基づく研究内容の報告・議論・指導（含学会報告準備等）(5)
第 8 回	今年度の研究計画に基づく研究内容の報告・議論・指導（含学会報告準備等）(6)
第 9 回	今年度の研究計画に基づく研究内容の報告・議論・指導（含学会報告準備等）(7)
第 10 回	今年度の研究計画に基づく研究内容の報告・議論・指導（含学会報告準備等）(8)
第 11 回	今年度の研究計画に基づく研究内容の報告・議論・指導（含学会報告準備等）(9)
第 12 回	今年度の研究計画に基づく研究内容の報告・議論・指導（含学会報告準備等）(9)
第 13 回	今年度の研究計画に基づく研究内容の報告・議論・指導（含学会報告準備等）(10)
第 14 回	今年度の研究計画に基づく研究内容の報告・議論・指導（含学会報告準備等）(11)
第 15 回	博士論文のふりかえり、次年度の研究計画

到達目標

博士論文を執筆し、自身の問題意識や仮説に基づき、学会発表、学術雑誌等への論文・研究ノート投稿、ディスカッション・ペーパーなどの準備、作成、公表（発表）がひとりでできるようになる。

履修上の注意

自立した研究者となるよう常に意識し、十分な事前準備と、事後の復習を必要とする。

評価方法

博士論文を含め学術論文の基本的要件（研究テーマの問題設定、学術的意味、新規性、オリジナリティ、先行研究検索、論理構成、仮説設定と分析手法、仮説と結論の整合性など）を守って論文を執筆してきたかどうかを評価する。

テキスト

必携のテキストは用いない。履修生自ら読むべき文献・論文を探索する（指導教員はそのサポートに徹する）。

特別研究指導Ⅰ　水野はるな

授業概要

原則博士論文の執筆は日本語で行います。博士論文を執筆する上での基礎を固めます。

授業計画

＜前期＞		＜後期＞	
第１回	オリエンテーション	第１回	オリエンテーション
第２回	研究テーマ設定に関する議論①	第２回	研究進捗状況に関する報告⑦
第３回	研究テーマ設定に関する議論②	第３回	研究進捗状況に関する報告⑧
第４回	研究テーマ設定に関する議論③	第４回	学術誌への論文投稿のための準備①
第５回	研究テーマ設定に関する議論④	第５回	学術誌への論文投稿のための準備②
第６回	研究テーマ設定に関する議論⑤	第６回	学術誌への論文投稿のための準備③
第７回	研究テーマに関する文献と理論の検討①	第７回	学術誌へ投稿する論文の内容確認①
第８回	研究テーマに関する文献と理論の検討②	第８回	学術誌へ投稿する論文の内容確認②
第９回	研究進捗状況に関する報告①	第９回	学術誌へ投稿する論文の執筆状況報告①
第10回	研究テーマに関する文献と理論の検討③	第10回	学術誌へ投稿する論文の執筆状況報告②
第11回	研究テーマに関する文献と理論の検討④	第11回	学術誌へ投稿する論文の執筆状況報告③
第12回	研究進捗状況に関する報告②	第12回	学術誌へ投稿する論文の執筆状況報告④
第13回	研究テーマに関する文献と理論の検討⑤	第13回	研究進捗状況に関する報告⑨
第14回	研究テーマに関する文献と理論の検討⑥	第14回	研究進捗状況に関する報告⑩
第15回	中間報告	第15回	中間報告

到達目標

①博士論文のテーマを設定し、②学術誌への投稿準備を完成させる。

履修上の注意

博士課程の大学院生らしく、真摯に研究活動に取り組んでください。博士論文の執筆において、指導教員とのコミュニケーションは最重要です。こまめに連絡を取りましょう。

評価方法

博士論文への取り組みによって評価します。

テキスト

特に指定しません。

特別研究指導Ⅱ　水野はるな

授業概要

初年次で設定した研究テーマに対して、学術論文の執筆の他に学会での報告ができることを目標にします。博士論文の執筆に向け、構成、スケジュールの確認を行いながら進めます。

授業計画

＜前期＞		＜後期＞	
第１回	オリエンテーション	第１回	オリエンテーション
第２回	研究進捗状況に関する報告①	第２回	研究進捗状況に関する報告⑦
第３回	研究進捗状況に関する報告②	第３回	研究進捗状況に関する報告⑧
第４回	学術誌への投稿状況の確認①	第４回	学術誌への論文投稿のための準備①
第５回	研究進捗状況に関する報告③	第５回	学術誌への論文投稿のための準備②
第６回	研究進捗状況に関する報告④	第６回	学術誌への論文投稿のための準備③
第７回	学会報告に向けた準備①	第７回	学術誌へ投稿する論文の内容確認①
第８回	学会報告に向けた準備②	第８回	学術誌へ投稿する論文の内容確認②
第９回	学会報告に向けた準備③	第９回	学術誌へ投稿する論文の執筆状況報告①
第10回	研究進捗状況に関する報告⑤	第10回	学術誌へ投稿する論文の執筆状況報告②
第11回	研究進捗状況に関する報告⑥	第11回	学術誌へ投稿する論文の執筆状況報告③
第12回	学術誌への投稿状況の確認②	第12回	学術誌へ投稿する論文の執筆状況報告④
第13回	学会報告に向けた準備③	第13回	博士論文の構成確認①
第14回	学会報告に向けた準備④	第14回	博士論文の構成確認②
第15回	中間報告	第15回	中間報告

到達目標

①学術誌へ論文を投稿する、②学会にて研究成果を報告する。

履修上の注意

博士課程の大学院生らしく、真摯に研究活動に取り組んでください。博士論文の執筆において、指導教員とのコミュニケーションは最重要です。こまめに連絡を取りましょう。

評価方法

博士論文への取り組みによって評価します。

テキスト

特に指定しません。

特別研究指導Ⅲ　水野はるな

授業概要

1、２年次で取り組んできた研究テーマを、博士論文としてまとめます。

授業計画

＜前期＞		＜後期＞	
第１回	オリエンテーション	第１回	オリエンテーション
第２回	博士論文執筆に向けた構成の最終確認①	第２回	博士論文の完成に向けたスケジュール確認
第３回	博士論文執筆に向けた構成の最終確認②	第３回	博士論文の執筆状況報告⑨
第４回	博士論文執筆に向けた構成の最終確認③	第４回	博士論文の執筆状況報告⑩
第５回	博士論文の執筆状況報告①	第５回	博士論文の執筆状況報告⑪
第６回	博士論文の執筆状況報②	第６回	博士論文の執筆状況報告⑫
第７回	博士論文の執筆状況報告③	第７回	博士論文の章別確認①
第８回	学術誌への論文投稿状況の確認①	第８回	博士論文の章別確認②
第９回	博士論文の執筆状況報告④	第９回	博士論文の章別確認③
第10回	博士論文の執筆状況報⑤	第10回	博士論文の章別確認④
第11回	博士論文の執筆状況報告⑥	第11回	博士論文の全体確認①
第12回	学術誌への論文投稿状況の確認②	第12回	博士論文の全体確認②
第13回	博士論文の執筆状況報⑦	第13回	博士論文完成前の最終確認①
第14回	博士論文の執筆状況報告⑧	第14回	博士論文完成前の最終確認②
第15回	中間報告	第15回	博士論文の完成報告

到達目標

博士論文を完成させる。

履修上の注意

博士課程の大学院生らしく、真摯に研究活動に取り組んでください。博士論文の執筆において、指導教員とのコミュニケーションは最重要です。こまめに連絡を取りましょう。

評価方法

博士論文への取り組みによって評価します。

テキスト

特に指定しません。

特別研究指導Ⅰ　　工藤　悟志

授業概要

経営学の古典から最新の文献や学術論文に触れ、経営学研究の特徴や理論について議論します。
また、受講生の問題意識から、先行研究を幅広くおこない、自分の研究の意義や位置づけ、具体的なリサーチクエスチョンの設定をします。

授業計画

＜前期＞		＜後期＞	
第１回	ガイダンス	第１回	ガイダンス
第２回	輪読①	第２回	研究の背景・問題意識①
第３回	輪読②	第３回	研究の背景・問題意識②
第４回	輪読③	第４回	学術論文を読む①
第５回	輪読④	第５回	学術論文を読む②
第６回	輪読⑤	第６回	学術論文を読む③
第７回	輪読⑥	第７回	学術論文を読む④
第８回	輪読⑦	第８回	学術論文を読む⑤
第９回	輪読⑧	第９回	研究目的についてディスカッション
第10回	輪読⑨	第10回	研究テーマの設定①
第11回	輪読⑩	第11回	研究テーマの設定②
第12回	経営学研究の方法論①	第12回	リサーチクエスチョンの設定①
第13回	経営学研究の方法論②	第13回	リサーチクエスチョンの設定②
第14回	経営学研究の方法論③	第14回	リサーチクエスチョンの設定③
第15回	経営学研究の方法論④	第15回	まとめ

到達目標

自分の研究の位置づけや意義を説明できる

履修上の注意

評価方法

課題・レジュメの内容と議論への貢献により評価します

テキスト

受講生の研究テーマを勘案し決めます。

特別研究指導Ⅱ　　工藤　悟志

授業概要

研究テーマを絞り、学会報告の準備をします。博士論文執筆のための準備を進めます。

授業計画

＜前期＞		＜後期＞	
第１回	ガイダンス	第１回	ガイダンス
第２回	研究目的についてディスカッション	第２回	学術論文を読む①
第３回	先行研究調査・発表①	第３回	学術論文を読む②
第４回	先行研究調査・発表②	第４回	学術論文を読む③
第５回	先行研究調査・発表③	第５回	学術論文の執筆①
第６回	先行研究調査・発表④	第６回	学術論文の執筆②
第７回	先行研究調査・発表⑤	第７回	学術論文の執筆③
第８回	方法論の検討・決定①	第８回	学術論文の執筆④
第９回	方法論の検討・決定②	第９回	学術論文の執筆⑤
第10回	方法論の検討・決定③	第10回	学術論文の執筆⑥
第11回	データの収集・分析①	第11回	学術論文の執筆⑦
第12回	データの収集・分析②	第12回	博士論文の構成の検討①
第13回	データの収集・分析③	第13回	博士論文の構成の検討②
第14回	学会報告の準備①	第14回	博士論文の執筆①
第15回	学会報告の準備②	第15回	博士論文の執筆②

到達目標

自分の研究の位置づけや意義を説明できる。
博士論文の研究テーマで学会報告と学術論文執筆をおこなう。

履修上の注意

博士論文の研究テーマで学会報告と学術論文執筆をおこないます。研究に十分な時間を確保するようにしてください。

評価方法

課題・レジュメの内容と議論への貢献により評価します

テキスト

受講生の研究テーマを勘案し決めます。

特別研究指導Ⅲ　　工藤　悟志

授業概要

経営学に関する博士論文を執筆・完成を目指します。十分な先行研究とデータをもとに議論された博士論文を執筆できるよう研究指導します。

授業計画

＜前期＞		＜後期＞	
第１回	ガイダンス	第１回	博士論文の構成の祭再検討①
第２回	リサーチクエスチョンの再検討	第２回	博士論文の構成の再検討②
第３回	方法論の検討・決定	第３回	博士論文の執筆①
第４回	先行研究のまとめ①	第４回	博士論文の執筆②
第５回	先行研究のまとめ②	第５回	博士論文の執筆③
第６回	先行研究のまとめ③	第６回	博士論文の執筆④
第７回	データの収集・分析①	第７回	博士論文の執筆⑤
第８回	データの収集・分析②	第８回	博士論文の執筆⑥
第９回	データの収集・分析③	第９回	博士論文の執筆⑦
第10回	博士論文の執筆①	第10回	博士論文の執筆⑧
第11回	博士論文の執筆②	第11回	博士論文の執筆⑨
第12回	博士論文の執筆③	第12回	博士論文の執筆⑩
第13回	博士論文の執筆④	第13回	博士論文の最終修正①
第14回	博士論文の執筆⑤	第14回	博士論文の最終修正②
第15回	博士論文の執筆⑥	第15回	博士論文の完成

到達目標

博士論文を完成させる。

履修上の注意

研究に十分な時間を確保するようにしてください。

評価方法

博士論文への取り組みを中心に総合的に評価します

テキスト

必要に応じて、適宜紹介します。

特別研究指導Ⅰ　　篠原　　淳

授業概要

博士論文を完成させるための準備を進める。特に次のような指導する。
1　論文テーマの設定（基本的には本人の研究計画書による）の明確化。
2　テーマの問題設定のための既存研究のサーベイと論点整理。
3　論点ごとの研究報告。

授業計画

＜前期＞		＜後期＞	
第１回	受講生の問題意識の把握	第１回	博士論文の構成の作成(1)
第２回	テーマ関連の文献リストの作成	第２回	博士論文の構成の作成(2)
第３回	基本的な文献の調査と報告(1)	第３回	博士論文の構成の作成(3)
第４回	基本的な文献の調査と報告(2)	第４回	論文構成に必要な文献研究のレビュー(1)
第５回	基本的な文献の調査と報告(3)	第５回	論文構成に必要な文献研究のレビュー(2)
第６回	基本的な文献の調査と報告(4)	第６回	論文構成に必要な文献研究のレビュー(3)
第７回	基本的な文献の調査と報告(5)	第７回	論文構成に必要な文献研究のレビュー(4)
第８回	論文テーマの絞り込み	第８回	論文構成に必要な文献研究のレビュー(5)
第９回	テーマ関連の報告と検討(1)	第９回	研究の中間的なとりまとめ(1)
第10回	テーマ関連の報告と検討(2)	第10回	研究の中間的なとりまとめ(2)
第11回	テーマ関連の報告と検討(3)	第11回	研究の中間的なとりまとめ(3)
第12回	テーマ関連の報告と検討(4)	第12回	研究の中間的なとりまとめ(4)
第13回	テーマ関連の報告と検討(5)	第13回	研究の中間的なとりまとめ(5)
第14回	テーマ関連の報告と検討(6)	第14回	研究の中間的なとりまとめ(6)
第15回	研究成果の報告	第15回	研究成果の報告・討論

到達目標

論文作成に関連する先行研究を熟知し、必要な文献を整理する。
博士論文テーマの中間的なとりまとめを行う。

履修上の注意

自ら課題に対して問題内容の明確化に努め、研究文献に対する批判力を養うこと。
自ら積極的に課題を設定し調査研究を行うこと。

評価方法

レポート報告（60%）、講義中の議論（40%）によって総合的に判定する。

テキスト

学生の研究テーマに応じて指示する。

特別研究指導Ⅱ　　篠原　　淳

授業概要

研究の進捗状況を踏まえて、博士論文の前提となる学術論文（最終論文の一部を構成する論文）を公刊誌に掲載発表するための 研究指導を行う。論文テーマの再吟味（適切性など）、理論の整合性の検討、文献サーベイあるいは実証分析の妥当性などを精査する。また、学会やワークショップに参加し、研究成果を発信していく。

授業計画

＜前期＞		＜後期＞	
第１回	学術論文テーマの明確化	第１回	論文の作成・報告・討論(1)
第２回	テーマ関連の文献収集	第２回	論文の作成・報告・討論(2)
第３回	主要な論点毎の小論文の作成(1)	第３回	論文の作成・報告・討論(3)
第４回	主要な論点毎の小論文の作成(2)	第４回	論文の作成・報告・討論(4)
第５回	主要な論点毎の小論文の作成(3)	第５回	論文の作成・報告・討論(5)
第６回	主要な論点毎の小論文の作成(4)	第６回	論文の作成・報告・討論(6)
第７回	主要な論点毎の小論文の作成(5)	第７回	論文の作成・報告・討論(7)
第８回	主要な論点毎の小論文の作成(6)	第８回	研究報告
第９回	主要な論点毎の小論文の作成(7)	第９回	論文の構成・検討・修正(1)
第10回	主要な論点毎の小論文の作成(8)	第10回	論文の構成・検討・修正(2)
第11回	研究の見直し	第11回	見直し後の論文の作成・報告(1)
第12回	文献報告(1)	第12回	見直し後の論文の作成・報告(2)
第13回	文献報告(2)	第13回	見直し後の論文の作成・報告(3)
第14回	文献報告(3)	第14回	見直し後の論文の作成・報告(4)
第15回	研究成果の報告	第15回	研究成果の報告

到達目標

・博士論文提出の前提となる学術論文の提出。
・論文のオリジナリティの明確化。

履修上の注意

論文作成の進捗ごとに緻密な研究指導を受けること。

評価方法

各回の報告と進捗状況に基づいて、総合的に評価する。

テキスト

学生の研究テーマに応じて指示する。

特別研究指導Ⅲ　　篠原　　淳

授業概要

テーマをさらに発展させ、深化させて、博士論文としてオリジナリティを十分明確化し、学術論文としての成果あるものとなるよう研究指導する。

授業計画

＜前期＞		＜後期＞	
第１回	博士論文のテーマの最終的確定	第１回	論文作成・報告(1)
第２回	既発表論文の補強点の明確化	第２回	論文作成・報告(2)
第３回	必要文献の見直し	第３回	論文作成・報告(3)
第４回	文献報告(1)	第４回	論文作成・報告(4)
第５回	文献報告(2)	第５回	論文作成・報告(5)
第６回	文献報告(3)	第６回	中間報告会資料作成
第７回	中間報告会用資料作成	第７回	中間報告会資料作成
第８回	同上	第８回	論文作成・報告(1)
第９回	論文作成・報告(1)	第９回	論文作成・報告(2)
第10回	論文作成・報告(2)	第10回	論文作成・報告(3)
第11回	論文作成・報告(3)	第11回	論文作成・報告(4)
第12回	論文作成・報告(4)	第12回	論文作成・報告(5)
第13回	論文作成・報告(5)	第13回	論文の提出
第14回	論文作成・報告(6)	第14回	最終試験準備
第15回	研究成果の報告	第15回	最終試験準備

到達目標

・博士論文の完成
・自立した研究者の育成

履修上の注意

・自立した研究者としての自覚を持つこと

評価方法

博士論文作成プロセスを通して、論文作成能力を評価する。　研究倫理および研究者としての自立度を評価する。

テキスト

学生の研究テーマに応じて指示する。